

元 茨 木 川 緑 地  
リ ・ デ ザ イ ン 計 画

平成 31 年 3 月

茨 木 市



## 目 次

1. 背景と目的 .....	1
2. リ・デザイン計画.....	2
1) 現況及び課題.....	2
2) リ・デザインの目標.....	23
3) リ・デザイン基本方針及びゾーニング .....	24
4) ゾーン別リ・デザイン方針 .....	26
5) 各ゾーンの利活用イメージ .....	27
6) モデル箇所リ・デザイン検討 .....	32
3. 管理運営計画.....	47
1) 植栽管理計画.....	47
2) 市民参加による推進計画.....	66
4. 今後の展開 .....	70
1) 活動・文化を育む仕組みづくり .....	70
2) 植栽環境の健全化 .....	71
3) 利活用空間の創出 .....	71

## 1. 背景と目的

茨木市を代表する全長約 5 km の緑地「元茨木川緑地」は、開設から約 40 年が経過し、老木の増加、施設の老朽化が進み、その更新が必要となっている。また、「茨木市緑の基本計画」（平成 28 年 3 月）では、重点・先導的な取組みとして「元茨木川緑地のリニューアル」が掲げられており、市の緑の骨格軸として市民のニーズを踏まえたリニューアル、市民参加の仕組みを盛り込んだ取組みを進めていくこととされている。

このため、平成 29 年から平成 30 年にかけて、市民ニーズを踏まえたリ・デザイン<sup>※</sup>を進めるため、シンポジウムや市民ワークショップ等を開催し、元茨木川緑地のリ・デザインが目指す目標、基本方針等をまとめた「元茨木川緑地リ・デザイン計画」を作成した。

### ※リ・デザイン

古くなった部分の改修や更新を行う単なるリニューアルではなく、今までの良さも残しつつ、市民の多様で魅力ある活動が生まれ、市民の関わりと活動が広がる場を目指して、元茨木川緑地を見直すリ・デザインとする。



## 2. リ・デザイン計画

### 1) 現況及び課題

元茨木川緑地は、昭和 49 年から昭和 63 年にかけて、北側から順に整備されており、整備年度の差が最大で 13 年みられる。このため、植栽の生育年数や施設の老朽化の状況も、場所によって異なっている。

今回、リ・デザイン計画の検討にあたって、現況の空間特性と各場所の周辺状況の特性から 11 の区間を設定し、それぞれの現況及び課題を整理した。

空間特性については、緑地の幅、植栽、施設の状況から 4 つのタイプに区分した。

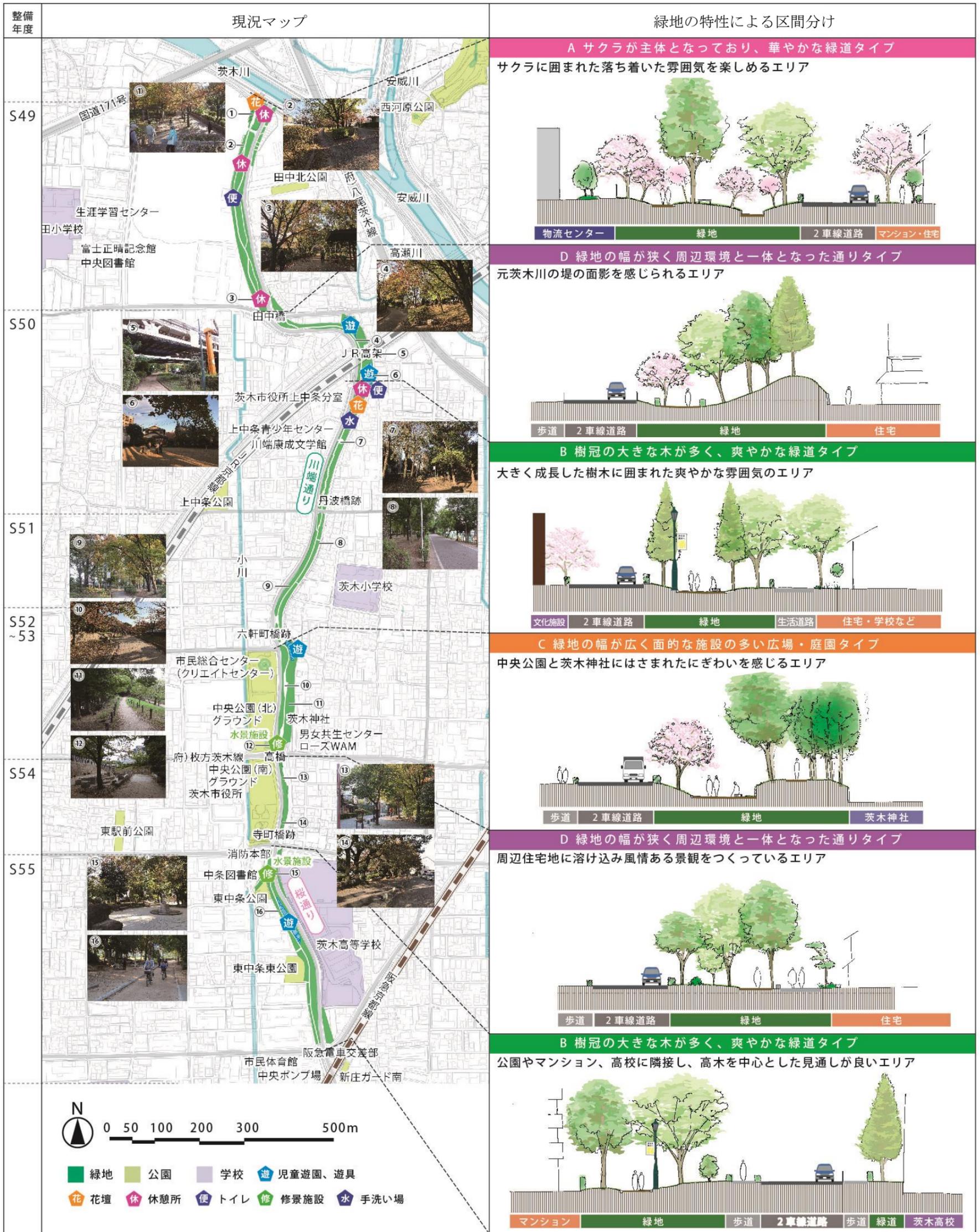
また、便宜上、整備年度の違いから阪急電車交差部（新庄ガード）の北側と南側とにブロック分けを行った。

【表 北ブロックと南ブロックの特徴】

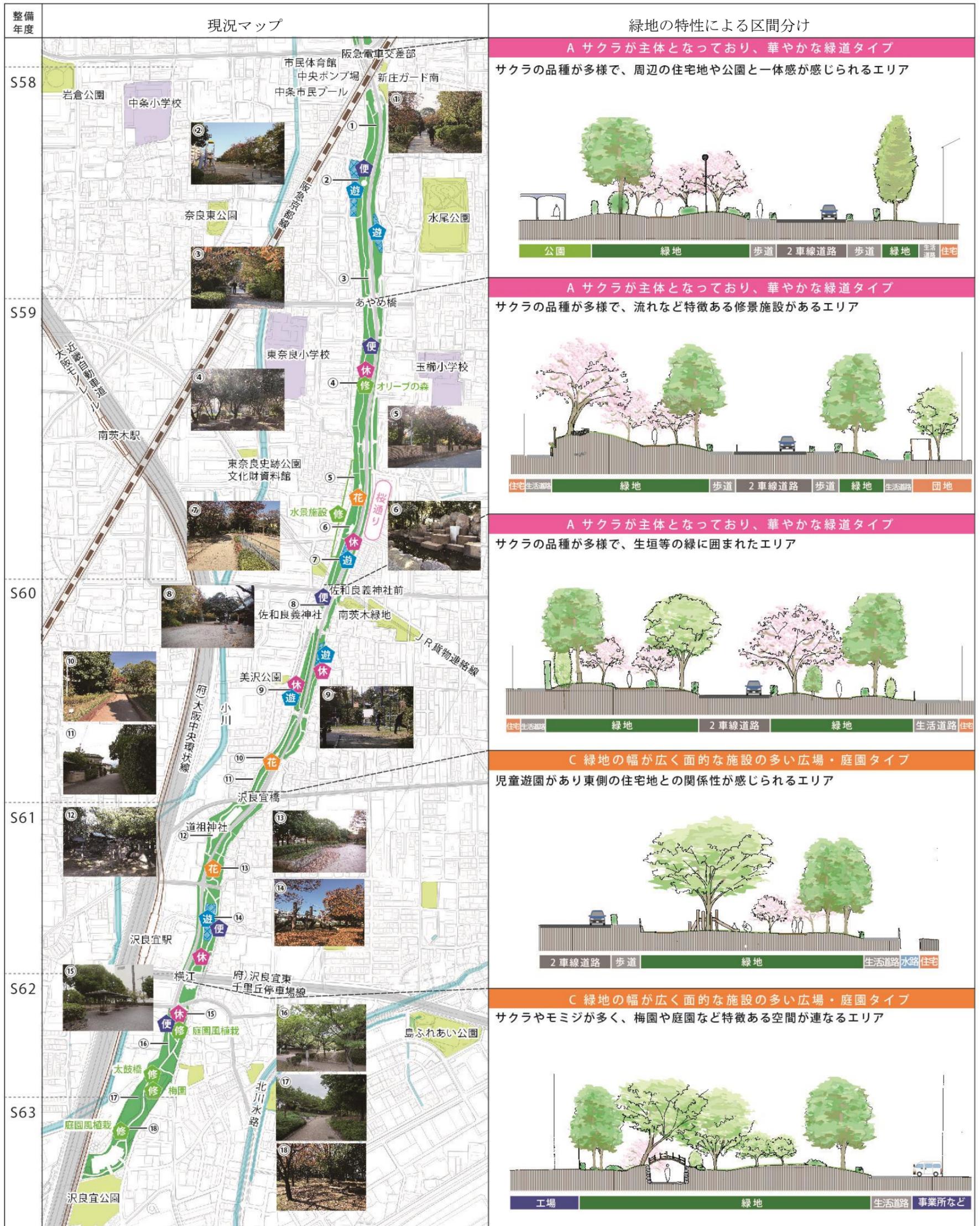
ブロック名	対象区間	特徴
北ブロック	緑地の最北端から阪急電車交差部（新庄ガード）まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和 49 年から 55 年にかけて整備された。</li> <li>大きく育った樹木の下は、比較の見通しが良く、落ち着いた雰囲気である。</li> <li>周辺には、市役所や川端康成文学館等の公共施設が多く見られる。</li> </ul>
南ブロック	阪急電車交差部（新庄ガード）から緑地の最南端まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和 56 年から 63 年にかけて整備された。</li> <li>サクラが多く、様々な品種が植えられている。</li> <li>周辺環境は、府）沢良宜東千里停車場線の北側は住宅地が主であり、南側は工場や事業所が多く見られる。</li> </ul>

【表 4 つの空間特性タイプ】

A: サクラが主体となっており、華やかな緑道タイプ	B: 樹冠の大きな木が多く、爽やかな緑道タイプ
	
C: 緑地の幅が広く面的な施設の多い広場・庭園タイプ	D: 緑地の幅が狭く周辺環境と一体となった通りタイプ
	



【図 現況特性による区間分け (11 区間分類) 北ブロック (6 区間)】



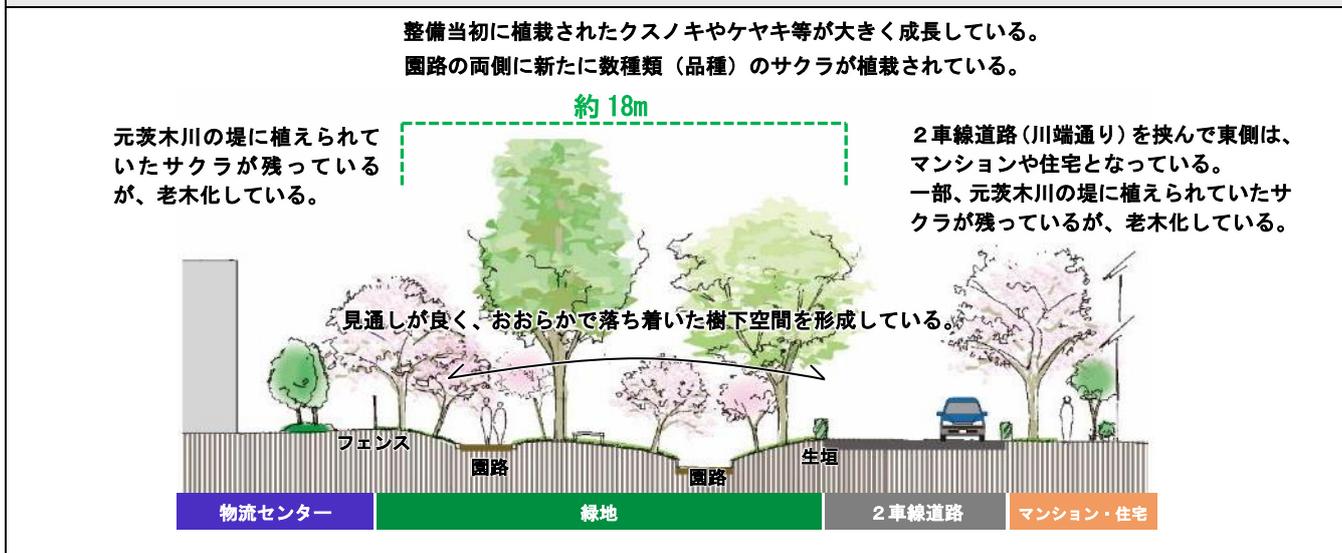
【図 現況特性による区間分け (11 区間分類) 南ブロック (5 区間)】

2. リ・デザイン計画

(1) 北ブロックの現況と課題

北-1	空間特性タイプ	A サクラが主体となっており、華やかな緑道タイプ	
整備時期	昭和 49 年	区間	茨木川～田中橋交差点
主な施設	花壇 (1 箇所)、休憩所 (3 箇所)、トイレ (1 箇所)、安威川・茨木川合流の碑、田中橋跡碑	周辺環境等	東側：住宅地 西側：物流ターミナル ※元茨木川緑地の最北端
現況特性	<p>●緑地の幅・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の西側は、他の箇所比べて緑地の幅が広い。一方、東側に緑地はほとんど見られず、住宅地の前にサクラが植栽されている程度である。</li> </ul> <p>●植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノを中心にサクラが多く植栽されている。緑地の最北端に見られるソメイヨシノ等、元茨木川の堤に植えられていたと考えられる大木が残っている。</li> <li>・整備当初に植えられたと思われるクスノキやケヤキが、大きく成長している。</li> <li>・落葉高木が主体の植栽となっており、見通しが良い。</li> </ul> <p>●施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩所、トイレ、ベンチやテーブルが設置されている。</li> </ul> <p>●周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元茨木川緑地の最北端に位置する。</li> <li>・緑地の東側は2車線道路を挟んで住宅、西側は物流ターミナルに接する。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノの老木化が見られ、今後、保全や更新の対策が必要である。</li> <li>・高木が多く、強風等による倒木、枝折れ等に対する対応策が必要である。</li> <li>・樹木の成長に伴い、根上がりや舗装に凸凹が生じている。</li> <li>・道路と緑地の境界の生垣に隙間が多く、防塵や遮音効果があまり期待できない。</li> <li>・植栽地と園路に高低差があり、広々とした利用がしづらい。車椅子やベビーカーでの利用もしづらい。</li> <li>・休憩所、トイレ、ベンチやテーブルに老朽化が見られる。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央図書館と緑地を結ぶ連絡道が整備され、緑地の西側に出入口が新たに設けられた。</li> <li>・「茨木市民さくらまつり」の会場として利用されており、花見客が多く見られる。</li> </ul>		

現況特性図

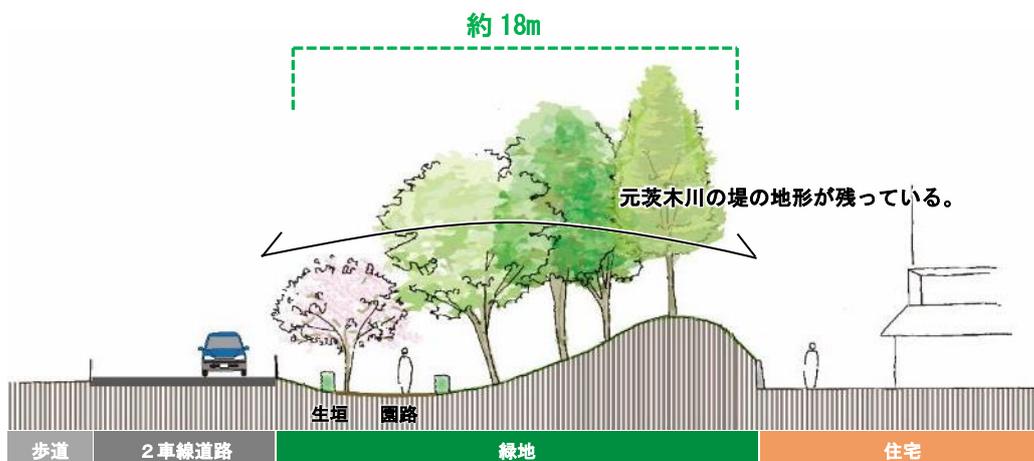


2. リ・デザイン計画

北-2	空間特性タイプ	D 緑地の幅が狭く周辺環境と一体となった通りタイプ	
整備時期	昭和 50 年	区間	田中橋交差点～上泉町北児童遊園
主な施設	児童遊園・遊具 (2 箇所)、トイレ (1 箇所)	周辺環境等	東側：住宅地、田中の丸また等 西側：住宅地、バス停 (田中橋停留所)
現況特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●緑地の幅・形状                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東側にのみ緑地がある。</li> <li>・元茨木川の堤の斜面地形を残している。</li> <li>・JRの高架をくぐる形で、園路が通っている。</li> </ul> </li> <li>●植栽                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・田中橋付近はサクラ、JR高架の北側はイチョウ、高架の南側は落葉高木を主体とした植栽となっている。</li> </ul> </li> <li>●施設                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童遊園・遊具、トイレが設けられている。</li> </ul> </li> <li>●周辺環境                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の東側は住宅地、西側は2車線道路を挟んで住宅地に接する。</li> <li>・緑地の西側にバス停 (田中橋跡停留所) がある。</li> </ul> </li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JRの高架や成長した高木により、日中でも薄暗い環境となっている。</li> <li>・JRの高架下を通る園路は、傾斜がついたカーブとなっており、見通しが利かない。</li> <li>・緑地の南北方向に続く園路と、緑地を東西に横断する園路が交差している部分は、見通しが悪く、児童遊園との出入口にも接しており、通行者同士がぶつかりやすい。見通しの確保や、動線の改善が求められる。</li> <li>・トイレは、園路から中が見え利用しづらい。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JRの高架下に、古いレンガ造りのアーチが残っている。</li> <li>・緑地の東側には、田中の丸またと呼ばれるレンガ造りのトンネルが見られる。</li> </ul>		

現況特性図

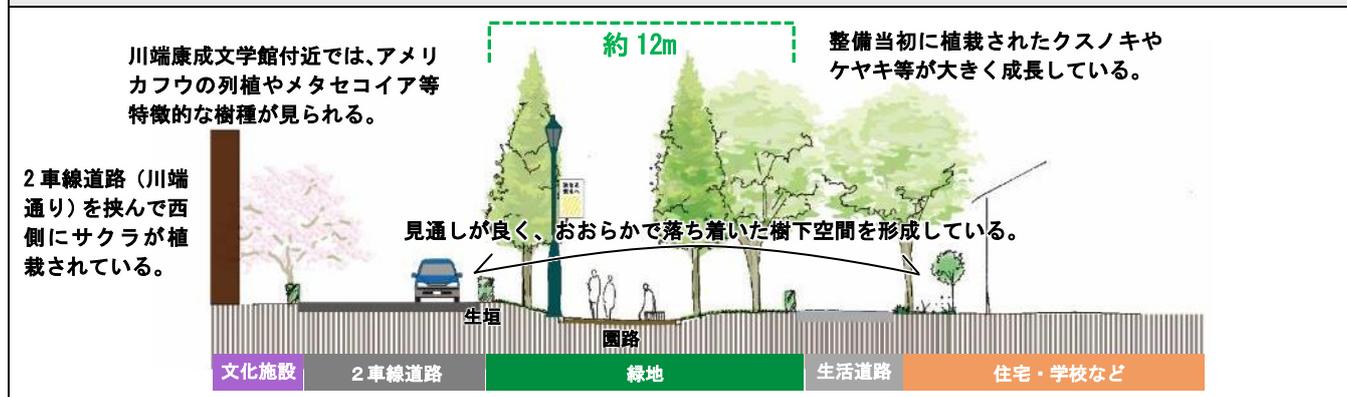
園路がJR高架をくぐる構造になっている。  
成長し大径木となった常緑樹の高木や高架下などの環境により、薄暗い印象を与えている。



2. リ・デザイン計画

北-3	空間特性タイプ	B 樹冠が大きな木が多く、爽やかな緑道タイプ	
整備時期	昭和 50～53 年	区間	上泉町北児童遊園～茨木税務署付近
主な施設	休憩所（1箇所）、花壇（1箇所）、手洗い（1箇所）、佐介樋跡、丹波橋跡碑、六軒町橋跡碑	周辺環境等	東側：住宅地、茨木小学校 西側：川端康成文学館、上中条青少年センター等
現況特性	<p>●緑地の幅・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東側にのみ緑地がある。</li> <li>・園路は、丹波橋跡に向かって下り坂になっている。</li> </ul> <p>●植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高木を主体とした植栽になっており、樹冠が大きく緑陰が多い環境である。</li> <li>・ケヤキ並木や、川端康成文学館付近のアメリカカフウやメタセコイア等、特徴的な樹木が見られる。六軒町橋跡付近は、サクラが多い。</li> </ul> <p>●施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩所、花壇、手洗い、ベンチ、健康遊具等が設けられている。</li> <li>・織部焼を考案した古田織部（佐介、佐助）が住んでいた丹波橋通りの北側の地域の呼称に由来する「佐介樋跡」や、茨木城下へ往来する要衝であった橋跡「丹波橋跡碑」等、市の歴史を伝える碑が設けられている。</li> </ul> <p>●周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の東側の住宅地は、かつて茨木城下町であった地域である。茨木小学校には、「茨木城櫓門」が復元されている。</li> <li>・緑地の西側は、2車線道路を挟んで川端康成文学館と上中条青少年センターに接する。</li> <li>・六軒町橋跡付近に、バス停（税務署前停留所）がある。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中木等が茂り、緑地から川端康成文学館の存在が分かりにくい。</li> <li>・上中条青少年センターの前のベンチの周辺等、常緑樹で覆われており日中でも薄暗く見通しが利きにくい箇所がある。</li> <li>・高木が多く、強風等による倒木、枝折れ等に対する対応策が必要である。</li> <li>・園路が園地よりも低い位置にあり、雨水や土砂がたまりやすい。</li> <li>・園路沿いに縁石や低木があり、車椅子やベビーカーで園地に入りづらい。</li> <li>・休憩所やベンチに老朽化が見られる。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川端康成文学館の前の歩道には、街路樹にサクラが多く植えられている。</li> </ul>		

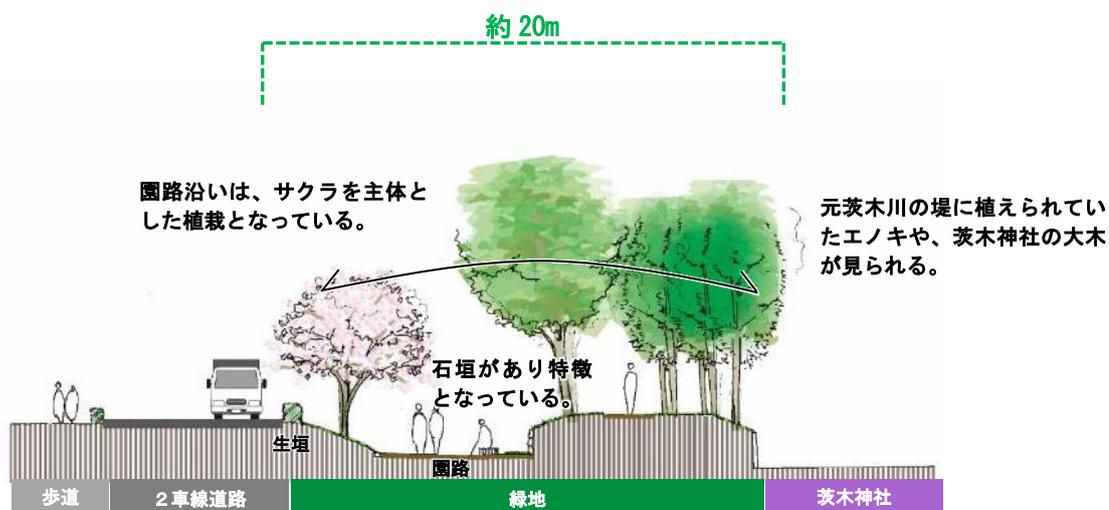
現況特性図



## 2. リ・デザイン計画

北-4	空間特性タイプ	C 緑地の幅が広く面的な施設の多い広場・庭園タイプ	
整備時期	昭和 52～53 年	区間	茨木税務署付近～高橋交差点
主な施設	児童遊園・遊具（1箇所）、修景施設（1箇所：水景施設）	周辺環境等	東側：茨木神社、男女共生センターローズ WAM、商店街等 西側：中央公園、市民総合センター等
現況特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●緑地の幅・形状           <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東側にのみ緑地がある。</li> <li>・広場のような雰囲気がある。</li> <li>・園路の東側には、元茨木川の堤であった部分が残っており、堤の上に散策路がある。</li> <li>・園路は、高橋に向かって下り坂となっており、高橋の下をくぐり寺町橋の方へ続く。</li> </ul> </li> <li>●植栽           <ul style="list-style-type: none"> <li>・サクラを主体とした植栽となっている。</li> <li>・緑地の東側には、エノキやスギ等の大木が多い。</li> </ul> </li> <li>●施設           <ul style="list-style-type: none"> <li>・園路沿いにベンチが設けられている。</li> </ul> </li> <li>●周辺環境           <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の東側は、茨木神社に接している。</li> <li>・緑地の西側は2車線道路に接しており、道路を挟んで更に西側には中央公園や市民総合センター等がある。</li> </ul> </li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノの老木化が見られ、今後、保全や更新の対策が必要である。</li> <li>・通行量、花見客が多く、踏圧によるサクラの樹勢への影響が懸念される。</li> <li>・高橋に向かって園路が曲がりながら下っており、見通しが利きにくい。</li> <li>・自転車の通行が多い。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茨木市民さくらまつり」等の会場として利用されており、花見客が多く見られる。</li> <li>・今後、「次なる茨木・ランドデザイン」と連携した緑地の活用が期待される。</li> </ul>		

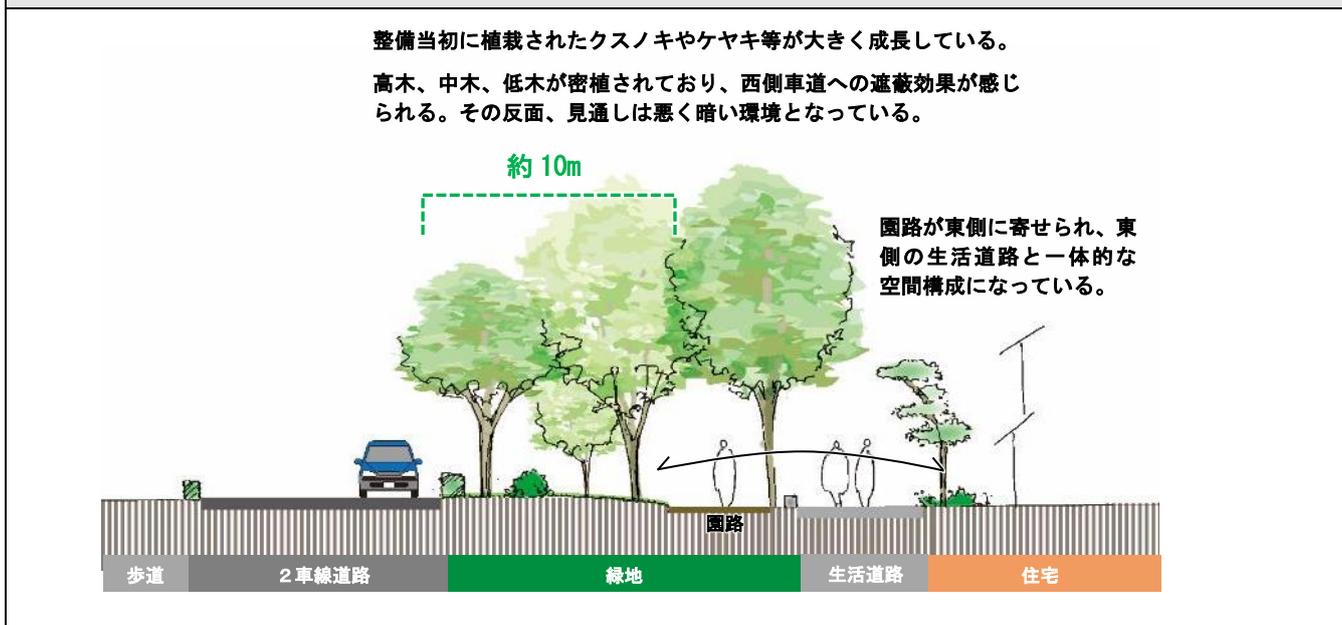
現況特性図



2. リ・デザイン計画

北-5	空間特性タイプ	D 緑地の幅が狭く周辺環境と一体となった通りタイプ	
整備時期	昭和 54 年	区間	高橋交差点～消防本部前付近
主な施設	寺町橋跡碑	周辺環境等	東側：住宅地 西側：中央公園、市役所等
現況特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●緑地の幅・形状                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東側にのみ緑地がある。</li> <li>・元茨木川の堤であった部分の上部が、緑地となっている。</li> <li>・緑地の東側の通りと一体的な空間を形成している。</li> </ul> </li> <li>●植栽                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉高木を中心とした植栽となっている。</li> <li>・緑地の西側に、高木や中低木が多く植栽されている。</li> </ul> </li> <li>●施設                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・かつて寺町橋が架かっていたことを伝える「寺町橋跡碑」が、設置されている。</li> </ul> </li> <li>●周辺環境                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の東側は住宅地となっている。</li> <li>・緑地の西側は2車線道路に接しており、道路を挟んで更に西側には中央公園や市役所がある。</li> </ul> </li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の幅が狭く、元茨木川緑地であると認識されにくい。</li> <li>・緑地の西側に中低木が多く植えられており、2車線道路への遮蔽効果がある一方で、見通しはよくない。</li> <li>・中央公園に近く、イベント会場の一部に利用されることがあるが、中央公園から緑地の中が見えず、会場として認識されにくい。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、「次なる茨木・ランドデザイン」と連携した緑地の活用が期待される。</li> <li>・イベントの会場として利用されることがある。</li> </ul>		

現況特性図

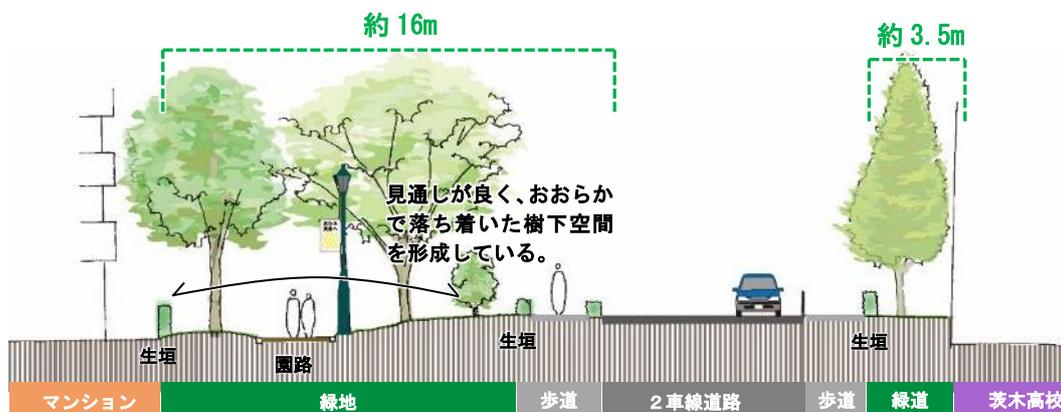


## 2. リ・デザイン計画

北-6	空間特性タイプ	B 樹冠が大きな木が多く、爽やかな緑道タイプ	
整備時期	昭和 55 年	区間	消防本部前付近～新庄ガード付近
主な施設	修景施設（1箇所：水景施設）、児童遊園・遊具（1箇所）、モニュメント	周辺環境等	東側：茨木高校、病院等 西側：中条図書館、東中条公園、東中条東公園等
現況特性	<p>●緑地の幅・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東西に緑地が設けられている。西側の方が緑地の幅が広く、東側にはほとんど緑地は見られない。</li> </ul> <p>●植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉高木を主体とした植栽になっており、樹冠が大きく緑陰が多い環境である。</li> <li>・西側の緑地は、高木が主体で、中低木は少なく、樹木の下をゆったりと歩ける林のような雰囲気が特徴的である。</li> <li>・東側の緑地はほとんどなく、消防本部前交差点と新庄町交差点の付近に高木を中心とした植栽が見られる程度である。</li> </ul> <p>●施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中条図書館の近くに、茨木童子のモニュメントと水景施設が設けられている。</li> <li>・西側の緑地の園路沿いに、遊具やベンチ、モニュメントが設置されている。</li> </ul> <p>●周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の東側は、茨木高校と病院に接している。</li> <li>・緑地の西側は、中条図書館、東中条公園、東中条東公園、マンションに接している。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木が多く、強風による倒木等への対策が必要である。</li> <li>・夏場に緑陰がある一方で、薄暗い印象を与える。</li> <li>・西側の緑地は2車線道路に接しており、緑地との境界部分に生垣が設けられているが、生垣が途切れている箇所が見られ、防塵や遮音効果があまり期待できない。</li> <li>・自転車の通行が多い。</li> <li>・カラスが多い。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの会場として利用されることがある。</li> </ul>		

### 現況特性図

整備当初に植栽された高木が大きく成長している。

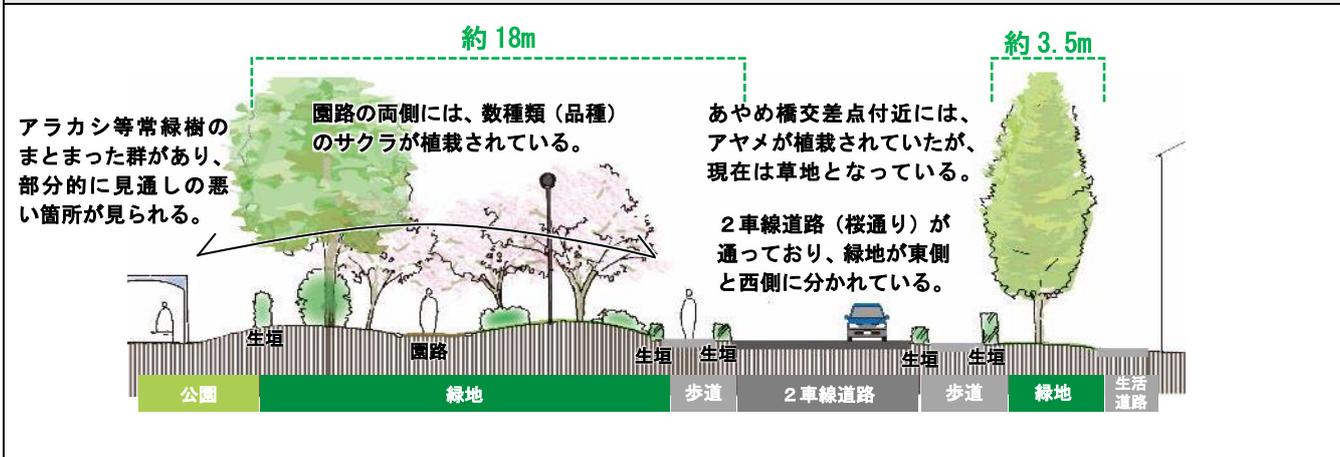


2. リ・デザイン計画

(2) 南ブロックの現況と課題

南-1	空間特性タイプ	A サクラが主体となっており、華やかな緑道タイプ	
整備時期	昭和 58 年	区間	新庄ガード付近～あやめ橋交差点
主な施設	児童遊園・遊具 (2 箇所)、トイレ (1 箇所)、あやめ橋跡碑	周辺環境等	東側：住宅地、水尾公園 西側：住宅地、市民体育館、中央ポンプ場、中条小学校、奈良東公園等
現況特性	<p>●緑地の幅・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東西に緑地が設けられている。西側の方が緑地の幅が広い。</li> </ul> <p>●植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノを中心に、サクラが多く植栽されている。西側の緑地の園路沿いは、複数の品種が見られる。</li> <li>・ムクゲやツツジ等花を楽しめる中低木が植えられている。</li> <li>・2車線道路に沿って生垣が設けられている。緑地の東西の境界部分にも断続的に生垣が設けられている。</li> <li>・あやめ橋の名称に因んで設けられたと考えられるアヤメの植栽の跡が見られる。</li> <li>・部分的にアラカシ等の常緑樹がまとまって植栽されている。</li> </ul> <p>●施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童遊園・遊具、トイレ、ベンチ、「あやめ橋跡碑」が設けられている。</li> </ul> <p>●周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の周辺は住宅地である。</li> <li>・2車線道路沿いに、バス停（主原停留所、あやめ橋停留所）がある。</li> <li>・緑地の東側には、緑地から少し離れて水尾公園がある。</li> <li>・緑地の西側には、緑地から少し離れて市民体育館や中条小学校等がある。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノの老木化や、常緑樹の陰になる等、弱っているサクラが見られる。</li> <li>・花見の利用者が多いが、現在の2車線道路沿いの生垣の状態では、防塵や遮音効果があまり期待できず、生垣のボリュームや高さの改善など、環境面や快適性の向上が望まれる。（住宅地側は花見禁止エリアとなっている。）</li> <li>・園路沿いの低木が成長し、見通しが利きにくい箇所が見られる。</li> <li>・アヤメの植栽の跡が、草地となっている。</li> <li>・遊具やベンチに老朽化が見られる。</li> <li>・自転車の通行が多い。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茨木市民さくらまつり」の会場として利用されており、花見客が多く見られる。</li> <li>・住宅地と緑地が隣接する箇所がある。</li> </ul>		

現況特性図



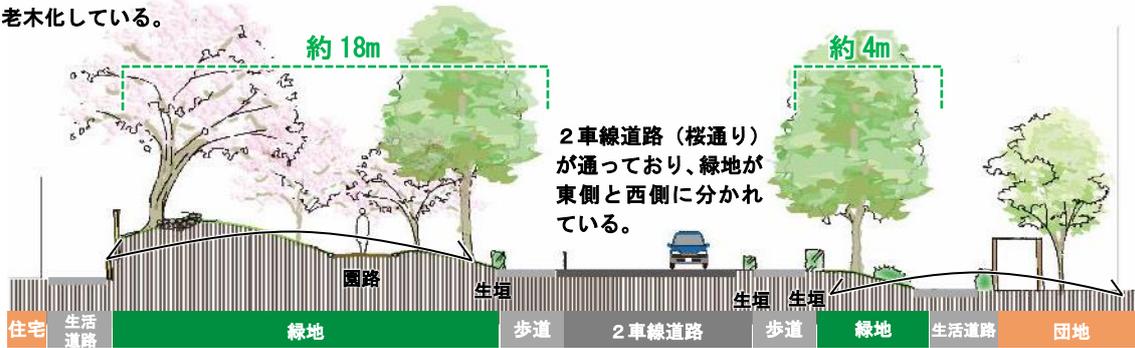
2. リ・デザイン計画

南-2	空間特性タイプ	A サクラが主体となっており、華やかな緑道タイプ	
整備時期	昭和 59 年	区間	あやめ橋交差点～佐和良義神社前交差点
主な施設	児童遊園・遊具 (1 箇所)、修景施設 (2 箇所:水景施設、オリーブの森)、休憩所 (2 箇所)、花壇 (1 箇所)、トイレ (1 箇所)	周辺環境等	東側：住宅地、玉櫛小学校 西側：住宅地、東奈良小学校、文化財資料館等
現況特性	<p>●緑地の幅・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東西に緑地が設けられている。西側の方が緑地の幅が広い。</li> </ul> <p>●植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノを中心に、サクラが多く植栽されている。元茨木川の堤に植えられていたと考えられるソメイヨシノの大木も見られ、住宅側が竹垣で修景されている。</li> <li>・部分的にカシ類、オリーブがそれぞれまとまって植栽されている。</li> <li>・ツツジ等花を楽しめる中低木が植えられている。</li> <li>・2車線道路に沿って生垣が設けられている。</li> <li>・住宅地側に市民が植栽し、世話をしていると思われる花壇が見られる</li> </ul> <p>●施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せせらぎ等水景施設やオリーブの森といった修景施設が見られる。</li> <li>・遊具、花壇、休憩所、トイレ、ベンチが設けられている。</li> </ul> <p>●周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の周辺は住宅地である。</li> <li>・2車線道路沿いに、バス停（玉櫛団地前停留所）がある。</li> <li>・緑地の東側には、緑地から少し離れて玉櫛小学校がある。</li> <li>・緑地の西側には、緑地から少し離れて東奈良小学校や文化財資料館、東奈良遺跡、阪急南茨木駅がある。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノの老木化や、常緑樹の陰になる等、弱っているサクラが見られる。根本の土が流れてしまっている箇所も見られる。</li> <li>・園路沿いの低木が成長し、見通しが利きにくい箇所が見られる。</li> <li>・遊具やベンチに老朽化が見られる。</li> <li>・自転車の通行が多い。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茨木市民さくらまつり」の会場として利用されており、花見客が多く見られる。</li> <li>・住宅地と緑地が隣接する箇所がある。</li> </ul>		

現況特性図

元茨木川の堤に植えられていたサクラが残っているが、老木化している。

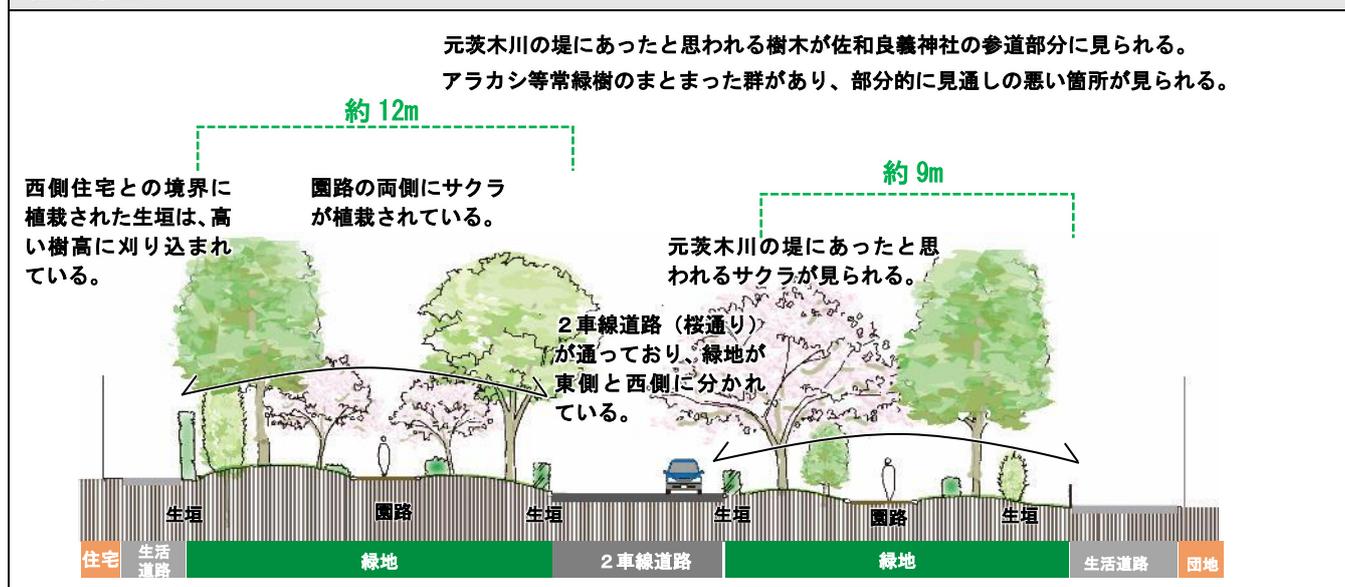
アラカシ等常緑樹のまとまった群があり、部分的に見通しの悪い箇所が見られる。住宅地側に花壇が作られている。



2. リ・デザイン計画

南-3	空間特性タイプ	A サクラが主体となっており、華やかな緑道タイプ	
整備時期	昭和 60 年	区間	佐和良義神社前交差点～沢良宜橋跡交差点
主な施設	児童遊園・遊具 (2 箇所)、休憩所 (2 箇所)、花壇 (1 箇所)、トイレ (1 箇所)	周辺環境等	東側：住宅地、南茨木緑地 西側：住宅地、佐和良義神社、美沢公園
現況特性	<p>●緑地の幅・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東西に緑地が設けられている。</li> <li>・佐和良義神社が建っている部分が、他に比べて高い地形となっている。</li> </ul> <p>●植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノを中心に、サクラが多く植栽されている。</li> <li>・落葉高木が多く植えられている。</li> <li>・2車線道路に沿って生垣が設けられている。東西の緑地の住宅地側にも生垣が設けられている。特に、西側の住宅地沿いには、樹高の高い生垣が続く箇所が見られる。</li> </ul> <p>●施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐和良義神社の北側にトイレが設けられている。</li> <li>・児童遊園や健康遊具、休憩所、バス停（沢良宜橋停留所）前に花壇とベンチが設けられている。</li> </ul> <p>●周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の周辺は住宅地である。</li> <li>・2車線道路沿いに、バス停（沢良宜橋停留所）がある。</li> <li>・緑地の東側は、南茨木緑地に接している。</li> <li>・緑地の西側には、沢良宜城跡や美沢公園がある。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメイヨシノの老木化や、常緑樹の陰になる等、弱っているサクラが見られる。</li> <li>・園路沿いの低木が成長し、見通しが利きにくい箇所が見られる。</li> <li>・遊具やベンチに老朽化が見られる。</li> <li>・自転車の通行が多い。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茨木市民さくらまつり」や佐和良義神社の祭りの会場として利用されている。</li> </ul>		

現況特性図



## 2. リ・デザイン計画

南-4	空間特性タイプ	C 緑地の幅が広く面的な施設の多い広場・庭園タイプ	
整備時期	昭和 61 年	区間	沢良宜橋跡交差点～横江交差点
主な施設	児童遊園・遊具 (1 箇所)、休憩所 (1 箇所)、花壇 (1 箇所)、トイレ (1 箇所)	周辺環境等	東側：住宅地 西側：道祖神社、モノレール沢良宜駅
現況特性	<p>●緑地の幅・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2車線道路の東西に緑地が設けられている。東側の方が緑地の幅が広い。</li> <li>・西側の緑地は、道祖神社と一体的になっている。</li> </ul> <p>●植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アラカシ、クスノキ、サクラ等の高木が多く植えられている。特に道祖神社の周辺は常緑樹を中心とした植栽となっている。</li> <li>・東側の児童遊園の辺りは、サクラが多く植えられている。アラカシがまとまって植えられている箇所も見られる。</li> <li>・2車線道路に沿って生垣が設けられている。</li> </ul> <p>●施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童遊園、休憩所、花壇、トイレ、ベンチが設けられている。</li> </ul> <p>●周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の東側は、住宅地となっている。</li> <li>・緑地の西側には、モノレール沢良宜駅や店舗が見られる。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹木の成長に伴い、根上がりや舗装に凸凹が生じている。</li> <li>・アラカシ等の常緑樹が成長し、見通しが良くない場所がある。</li> <li>・東側の緑地の広場から2車線道路がよく見え、落ち着かない雰囲気がある。ボールの飛び出しなども懸念される。</li> <li>・遊具や休憩所、ベンチに老朽化が見られる。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モノレール沢良宜駅からアクセスしやすい立地である。</li> </ul>		

### 現況特性図

児童遊園・遊具を中心とした広場型の空間を形成している。

整備当初に植栽されたクスノキやケヤキ等が大きく成長している。

約 25m

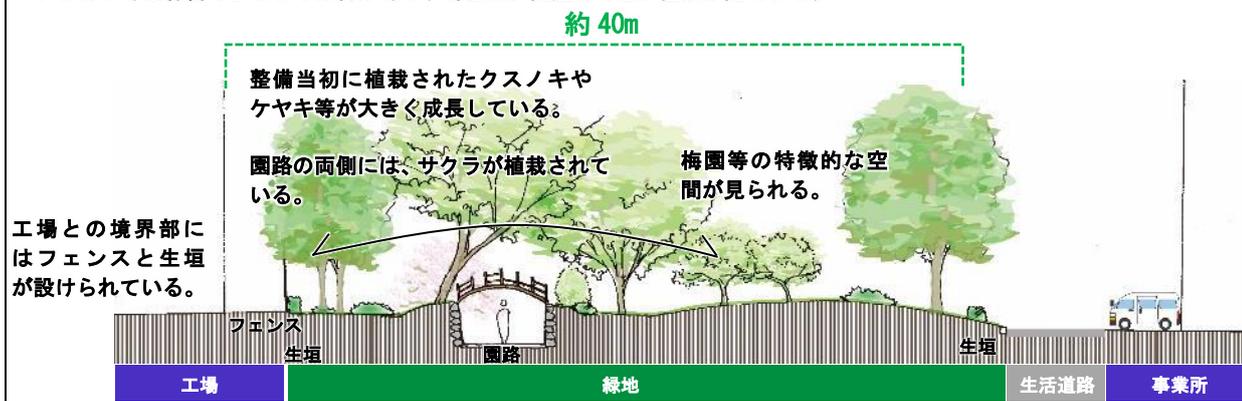


2. リ・デザイン計画

南-5	空間特性タイプ	C 緑地の幅が広く面的な施設の多い広場・庭園タイプ	
整備時期	昭和 62～63 年	区間	横江交差点～沢良宜公園
主な施設	修景施設（4 箇所：梅園、太鼓橋、庭園風植栽）、休憩所（1 箇所）、トイレ（1 箇所）	周辺環境等	東側：工場、事業所 西側：工場 ※元茨木川緑地の最南端
現況特性	<p>●緑地の幅・形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地が 2 車線道路で東西に分かれておらず、緑地の幅が広い。</li> <li>・人通りはそれほど多くなく、ゆったりとした雰囲気である。</li> </ul> <p>●植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モミジ、ハイビヤクシン、景石を組み合わせた庭園風の植栽、クロマツを背景にハイビヤクシンと景石を組み合わせた庭園風の植栽が見られる。</li> <li>・梅園があり、様々な品種のウメが植えられている。</li> <li>・梅園の南西には、ケヤキがまとまって植えられている。</li> <li>・園路沿いを中心に、サクラが植えられている。</li> <li>・横江交差点の南側に位置する緑地は、クスノキを主とした植栽となっている。</li> <li>・緑地の東西の境界部分には、生垣が設けられている。</li> </ul> <p>●施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木製の太鼓橋、梅園、庭園風の植栽といった修景施設が見られる。</li> <li>・休憩所、トイレ、ベンチ等が設けられている。</li> </ul> <p>●周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地の周辺は、工場や事業所が多く、緑地の西側は工場に隣接している。</li> <li>・緑地の南側は、沢良宜公園に繋がっている。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園路と緑地に高低差があり、広々とした利用がしづらい。</li> <li>・梅園への出入口が分かりづらく、散策路も設けられておらず、鑑賞がしづらい。</li> <li>・ハイビヤクシンが成長し、景石が隠れてしまっている。</li> <li>・周辺の工場の音や匂いが気なる時がある。</li> <li>・休憩所やトイレ、ベンチに老朽化が見られる。</li> </ul>		
他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元茨木川緑地の最南端に位置する。</li> <li>・緑地から続いている沢良宜公園には、駐車場が設けられている。</li> </ul>		

現況特性図

モミジを主体に景石がしつらえられた庭園的な空間が見られる。ハイビヤクシンの成長が旺盛なため、景石が隠れている。  
 梅園やケヤキの疎林、クロマツとハイビヤクシンと景石の庭園等特徴的な空間が見られる。  
 アラカシ等常緑樹のまとまった群があり、部分的に見通しの悪い箇所が見られる。



### 元茨木川緑地に見られる神社等

元茨木川緑地には、緑地になる以前からその場所に祀られている神社や地蔵が多く残っている。

#### ■茨木神社（天石門別神社）

建速素盞鳴尊、誉田別命、天兒屋根命が祀られている。延喜式に天石門別神社の名が記されている。高山右近が、織田信長に倣い神社仏閣を焼却するに際し、信長が天照大御神、春日大神、八幡大神及び牛頭天皇（素盞鳴大神）の諸社は焼くべからずとしたので牛頭天皇を祀ると詐称して焼却を免れたと伝えられている。元和八年（1622年）に、牛頭天皇、春日大神、八幡大神を祀る社殿を新たに築き、本殿とし、天石門別神社を奥宮とした。

天石門別神社の社殿は、「赤井」と呼ばれる井戸の上に建っている。また、境内には、豊臣秀吉が茶湯に用いたといわれる「黒井」があり、「摂津名所図会」にも記されている。



#### ■佐和良義神社

火伏せの神である加具土神が祀られている。加具は、銅の意味で、銅器を鑄造する神ではないかともいわれる。サワラも銅器を指しており、ギはムラの意である。この社より北へ約300mの地点から1973年（昭和48年）に、銅鐸の鑄型が出土した。



#### ■道祖神社（塞神神社）

猿田毘古大神が祀られている。15世紀末から16世紀初め沢良宜郷が解体され3字が誕生した際、浜村の鎮守社として創建された。「サエの神さん」「小宮さん」と呼ばれている。



#### ■その他社や地蔵

上記の神社以外にも、元茨木川緑地には社や地蔵が多く残っており、昔から地域の人々の暮らしに根付いた場所であったことがうかがえる。



※「現況と課題」及び「元茨木川緑地に見られる神社等」に記述した神社や史跡の内容については、以下の文献等を参考としている。

参考文献等：「茨木の史跡」（茨木市教育委員会）、「わがまち茨木 水利編」（茨木市教育委員会）、「茨木神社ホームページ」（茨木神社）

### (3) サクラに関する現況と課題

元茨木川緑地には、元茨木川であった時から植えられていたサクラや、緑地の整備にあわせて植栽されたサクラが多く存在する。植栽されているサクラの品種は、ソメイヨシノが主で、その多くが老木化してきている。加えて、周辺の樹木の成長による日照環境の悪化や、踏圧による土壌環境の悪化により、病気にかかっているものや、衰弱しているものも見受けられる。

今回、リ・デザイン計画を策定するにあって、ソメイヨシノのおおよその現況を把握するため、市民参加による花芽の確認及び専門家の目視による樹勢調査、専門家による土壌調査を行った。

#### ①樹勢調査結果

樹勢調査では、計 29 本のソメイヨシノを調査した。調査の結果は、花芽の数が 3~4 個のものが多く、全体的にやや弱っていると考えられる。専門家の目視による樹勢調査では、がんしゅ病等の病気や、日照不足等生育環境が良くないものも確認された。樹勢が旺盛とされる 6 個の花芽をもつソメイヨシノは、今回の調査では確認できなかった。花の数が 4 個以上であった調査木の数は、南ブロックが 14 本中 5 本であったのに対して、北ブロックでは 15 本中 8 本とやや多い結果となった。

ソメイヨシノを健全に育成しながら、元茨木川緑地の既存の植栽の魅力を効果的に発揮するためには、緑地全体の毎木調査（樹種、大きさ、健全度等）による現状の把握が望まれる。

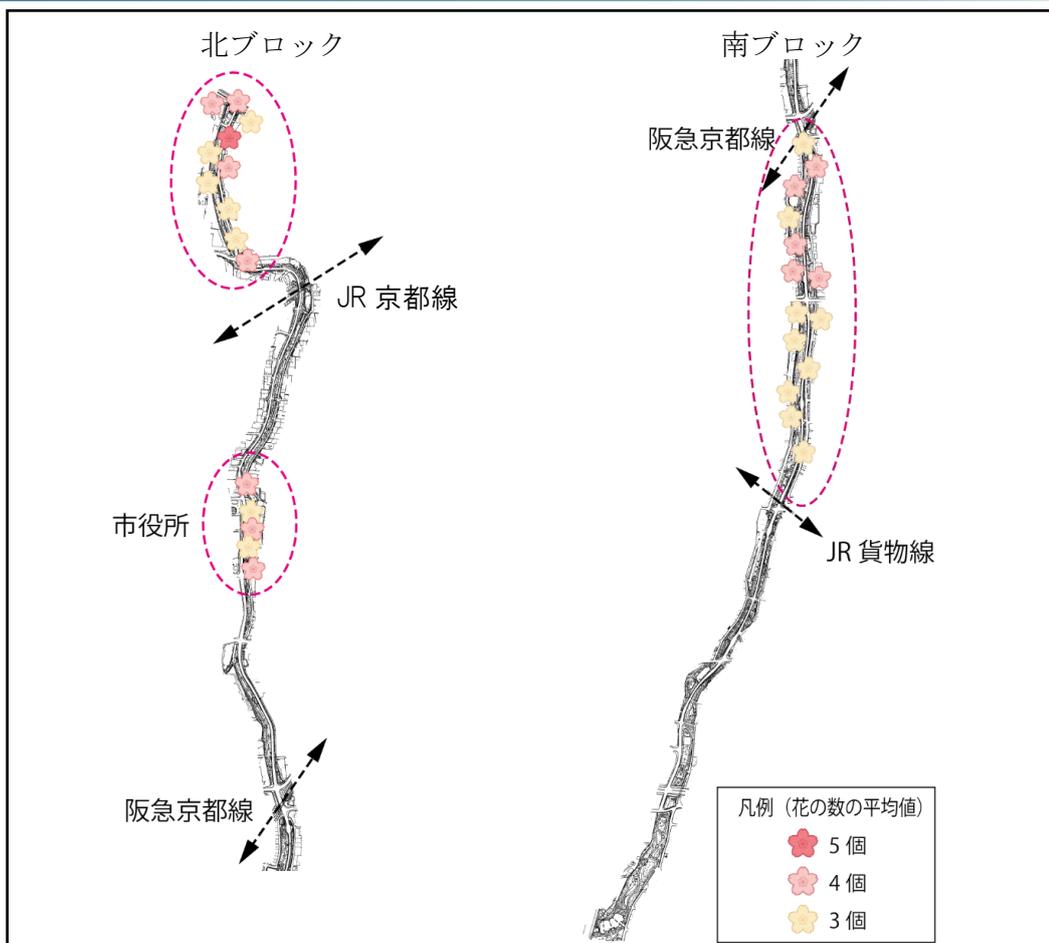
【表 花芽による樹勢診断の目安と数え方】

花芽の数	樹勢
2~3 個	衰退気味
4~5 個	良い
6 個以上	旺盛

〔出典：公益財団法人日本花の会〕



【図 花芽の数え方の例】



【図 サクラの樹勢調査箇所と花芽数】

【表 概観診断により確認された病気等】

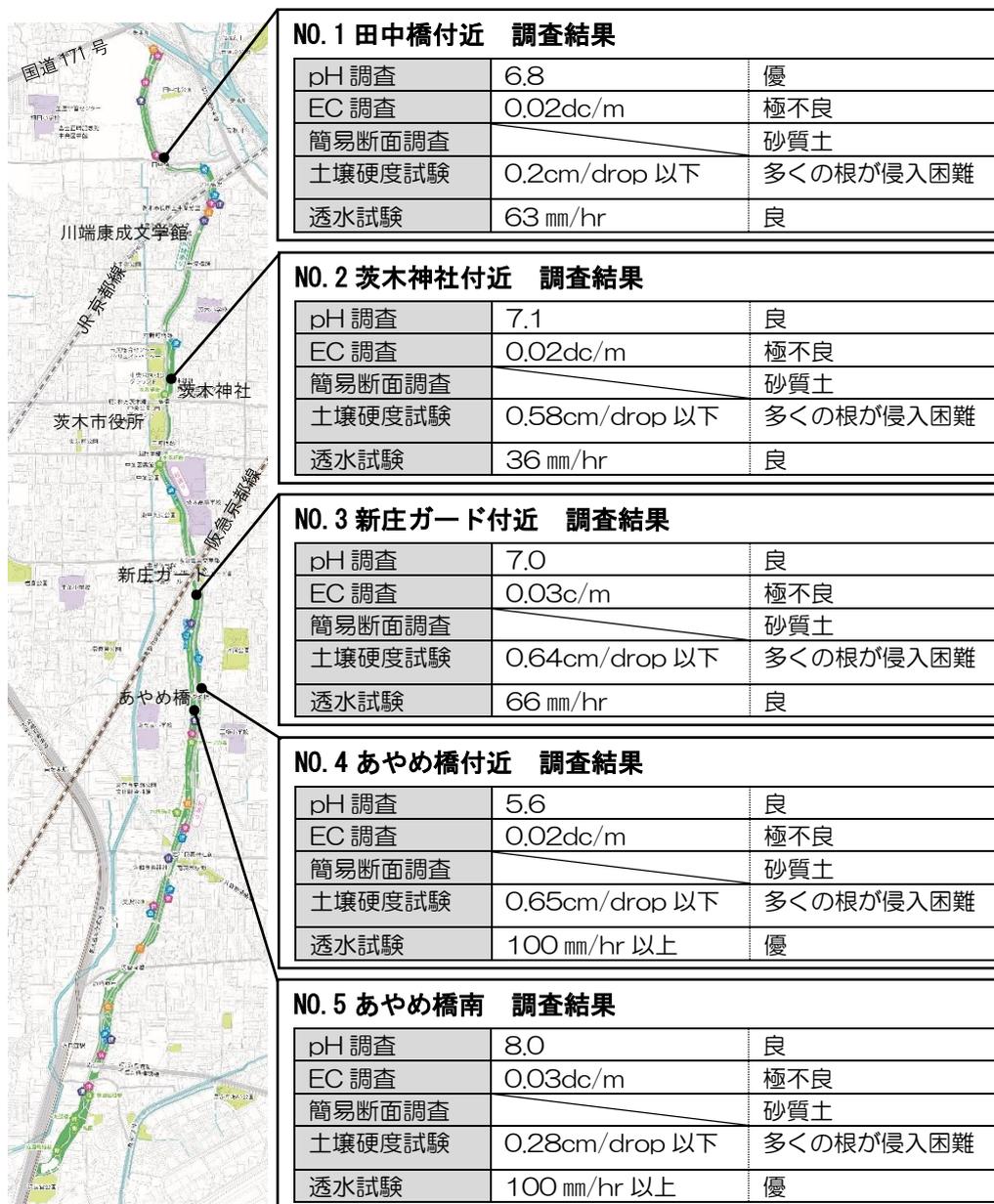
 <p>がんしゅ病</p>	 <p>腐朽菌 (キノコ) の付着</p>
 <p>幹の空洞化</p>	 <p>周辺の常緑樹による被圧</p>

②土壌調査結果

サクラの生育環境の現況を把握するため、計 5 箇所の土壌調査を実施した。調査では、以下の調査を実施した。

調査の結果、調査箇所は、ほぼ砂質で、カリウム等の栄養分が不足していることがわかった。また、表面から深さ 30cm 程が固まっており、深さ 30 cm 以上の深さまで水が浸透していない可能性が高いと考えられる。

今後、サクラをはじめ、既存木の樹勢を回復するためには、土壌が固結した状態を解消する土壌改良や、固結の原因として考えられる踏圧の影響を軽減する対策が望まれる。



【図 調査箇所及び調査結果】

【表 土壌調査内容】

調査項目	調査内容	判定基準	調査結果
pH 調査	水素イオン濃度を表す指標である pH 値を調べた。日本では一般的に 5.5～7.0 の弱酸性を示す。9.0 程度の強アルカリ性、4.0 以下の強酸性を示す場合は何らかの対策が必要である。	「優」 5.61～6.80 「良・可」 4.51～5.60、 6.81～8.00 「不良・不可」 3.51～4.50、 8.01～9.50 「極不良」 3.50 以下、 9.50 以上	問題なし 「良・可」 値：5.6～8.0
EC 調査	EC とは、電気伝導率のことである。値が高いほど陰イオンや陽イオンの含有量の多いことを示し、土壌肥沃度の目安となる。EC 値が高いと塩類障害の影響がある含有物が多く、EC 値が低いと栄養分が少ない。	「優」 0.1～0.2 ds/m 「良・可」 0.2～0.5 ds/m 「不良・不可」 0.5～1.5 ds/m 「極不良」 1.5 ds/m 以上、 0.1 ds/m 以下  〔基準：「緑化基盤における植栽基盤整備マニュアル」等に準拠〕	EC 値が低い 「極不良」 値：0.02～0.03 ds/m
簡易断面調査	土壌の表層より 60cm 厚程度の深さまでの土壌を簡易に調べるものである。土壌サンプルを採取し、層位区分、土壌構造、土色、土性、水分状態等を調べる。		砂質土
土壌硬度試験	土壌の堅密性を調べるものである。土壌の通気性や透水性の善し悪しや、土壌内の植物根の分布や発達の難易の判断材料となる。	「膨軟過ぎ」 4.0cm/drop 以上 「根系発達に阻害なし」 1.5～4.0cm/drop 「根系発達阻害樹種あり」 1.0～1.5cm/drop 「根系発達に阻害あり」 0.7～1.0cm/drop 「多くの根が侵入困難」 0.7 以下 cm/drop  〔基準：長谷川式土壌高度試験の基準〕	非常に固結 「多くの根が侵入困難」 値：0.2～0.6 cm/drop
透水試験	土壌の透水性の良否を調べる。芝生、樹木ともに病害虫以外での枯死の多くは透水不良によるものが多い。30cm 程度の深さから長谷川式簡易透水試験を行い、1 時間あたりの減水深（最終減水能）を判定する。	「優良」 100mm/hr 以上 「良」 30～100mm/hr 「やや不良」 10～30mm/hr 「不良」 10mm/hr 以下  〔基準：長谷川式簡易透水試験の基準〕	問題なし 「良～優良」 値：36～100 mm/hr 以上



## 2. リ・デザイン計画

### (4) シンポジウム等の意見総括

リ・デザイン計画の策定にあたって、市民、専門家の意見を踏まえた内容とするため、シンポジウムやワークショップ等を開催した。以下に、各回の主な意見について示す。

【表 実施したシンポジウム等一覧】

名称	開催日
自治会座談会	2017年11月25日
確かな未来ミーティング～次なる元茨木川緑地～	2018年1月20日
元茨木川緑地リニューアルシンポジウム ※シンポジウム以降に、リニューアルではなく「リ・デザイン」と改めた。	2018年2月11日
市民ワークショップ（全3回）	2018年6月17日 2018年7月23日 2018年10月14日
植栽検討市民ワーキング	2019年2月17日



シンポジウムの様子



市民ワークショップの様子

植栽検討市民ワーキングの様子

①自治会座談会

地元利用者から見た課題や展望について意見交換を行った。

■意見総括

- ・サクラや自然を楽しみながら、安心してゆっくり歩ける通りにしたい。(樹木の間引き、段差解消、自転車のマナー)
- ・休む場所が増えるとよい。(ベンチ、遊具、広場)

②確かな未来ミーティング～次なる元茨木川緑地～

市民から見た課題や展望について意見交換を行った。

■意見総括

- ・まちの真ん中にある緑地は、市民の誇り。自然が素晴らしい。
- ・様々な市民が共存して利用できるしくみがあるとよい。(情報発信のしくみ、イベントやボランティア活動ができるしくみ)
- ・今の魅力を活かしてパワーアップした元茨木川緑地にしたい。(季節感、マナーアップ、ユニバーサルデザイン、歴史資源や施設との連携による魅力づくり)

③元茨木川緑地リニューアルシンポジウム

“次なる元茨木川緑地”の将来について考えるシンポジウムを開催し、市民、植栽管理の専門家、学識者、市長によるパネルディスカッション、参加者との意見交換を行った。

■意見総括

- ・市民の“関わりしろ”を増やすことで、よりよい方向に進んでいけるのではないか。
- ・元茨木川緑地には、まだまだ“眠っている価値”があるのではないか。
- ・“眠っている価値”とは、市民の愛(愛着、誇り、親しみ)ではないか。
- ・市民財産として、茨木市の文化を育む場所になるとよいのではないか。
- ・里山のように、手を入れ続けることが大事である。
- ・植栽管理を複数年にわたってできるとよいのではないか。
- ・世界に誇れる元茨木川緑地を目指したい。

④市民ワークショップ

参加者を募集し、リ・デザインの方針や市民の関わり等について検討、意見交換を行うワークショップを全3回実施した。

■意見総括

- ・今の自然を活かし、元茨木川緑地全体でサクラと四季が楽しめるようにしたい。
- ・適切な植栽管理（間引き、老木化したサクラの更新、植物の成長に合わせた管理の時期や期間）が必要である。
- ・サクラや樹木の下で気持ちよく過ごせるように、ベンチや広場、ピクニックができる芝生等があるとよい。
- ・市民参加による花づくりは良いが、手入れが大変という面もある。
- ・もっといろいろな市民に、リ・デザインの取組みを知ってもらい、市民が関わっていただけるしくみが必要である。

⑤植栽検討市民ワーキング

植栽ガイドライン案を検討する箇所について、現地での検討、季節の景観イメージや管理に関する検討を行った。

■意見総括

- ・サクラを楽しみ続けるためには、周りの樹木の伐採や、将来的に老木化したサクラの更新も必要である。
- ・樹木の伐採の必要性について、市民に知らせていくことが大事である。
- ・専門家による年間を通じた植栽管理、複数年をかけた樹形の育成が必要である。
- ・今後も、場所ごとに植栽について市民が考えられる機会の継続が望まれる。

2) リ・デザインの目標

元茨木川緑地リ・デザインでは、多様な人が関わり様々に活用され、多様な環境が育まれていくことで、それまでは感じられなかった魅力「眠っている価値」が引き出され、市民に愛され続け、世界に誇れる元茨木川緑地となることを目指す。

— リ・デザインの目標 —

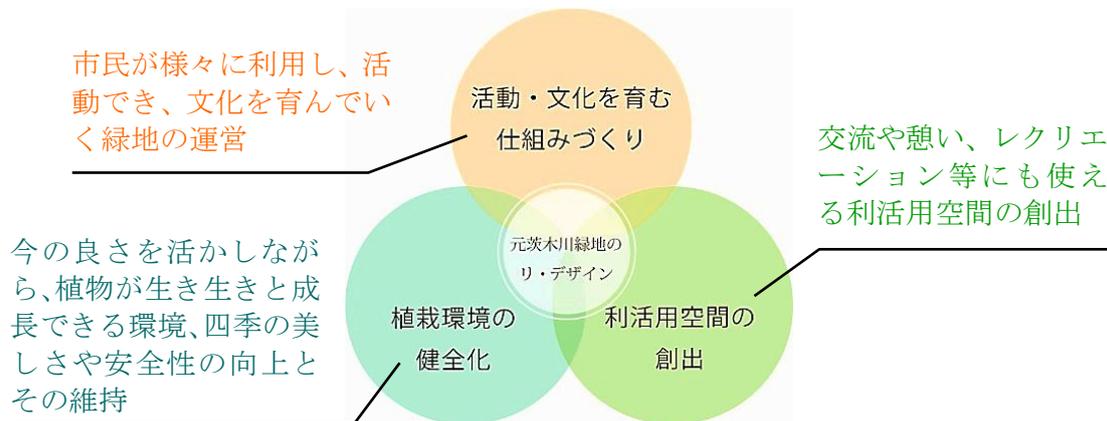
多様な人の関わりが多様な環境を育む  
世界に誇れる元茨木川緑地を目指す

### 3) リ・デザイン基本方針及びゾーニング

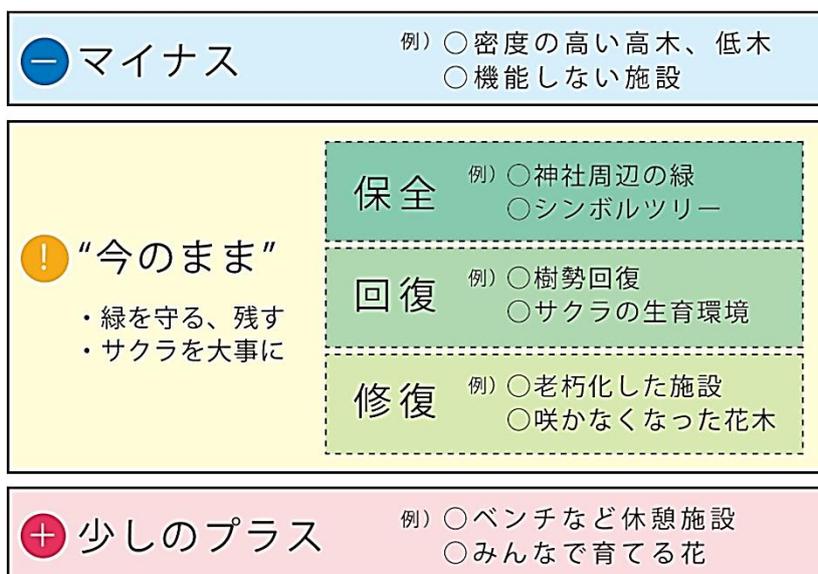
元茨木川緑地リ・デザイン計画では、市民が様々に利用し活動できる場所となり、文化を育む緑地を目指す「活動・文化を育む仕組みづくり」、市民の利用を支える基盤環境となる植栽環境の質を向上し維持することを目指す「植栽環境の健全化」、緑道の歩行空間に加え交流や憩い等の利活用空間を生み出す「利活用空間の創出」の3つを基本方針とする。

これらの基本方針に基づき、現状を活かすことを基本とし、「目標に照らし合わせてマイナスする」、「今の魅力を大事にするために保全・回復・修復させる」、「魅力を高めるために少しプラスする」という考え方を、リ・デザインの取組み方針とする。この3つの考え方を組み合わせて、リ・デザインを進めていくものとする。

また、全長約5kmの元茨木川緑地の場所ごとの特性を活かして、さらなる魅力を引き出していけるよう、市民ワークショップ（平成30年度）の検討を元に、4つの特色をもったゾーンを設定する。



【図 リ・デザイン基本方針】



【図 リ・デザインの取組み方針】

文化・交流シンボルゾーンの  
リ・デザインイメージ



サクラと憩いのゾーンの  
リ・デザインイメージ



文化・交流シンボルゾーン

サクラと暮らしのガーデンゾーン

サクラと暮らしのガーデンゾーンの  
リ・デザインイメージ



庭園・レクリエーションゾーンの  
リ・デザインイメージ



庭園・レクリエーションゾーン



4) ゾーン別リ・デザイン方針

各ゾーンの特性を踏まえた個別方針を以下に示す。

【表 ゾーン別リ・デザイン方針一覧】

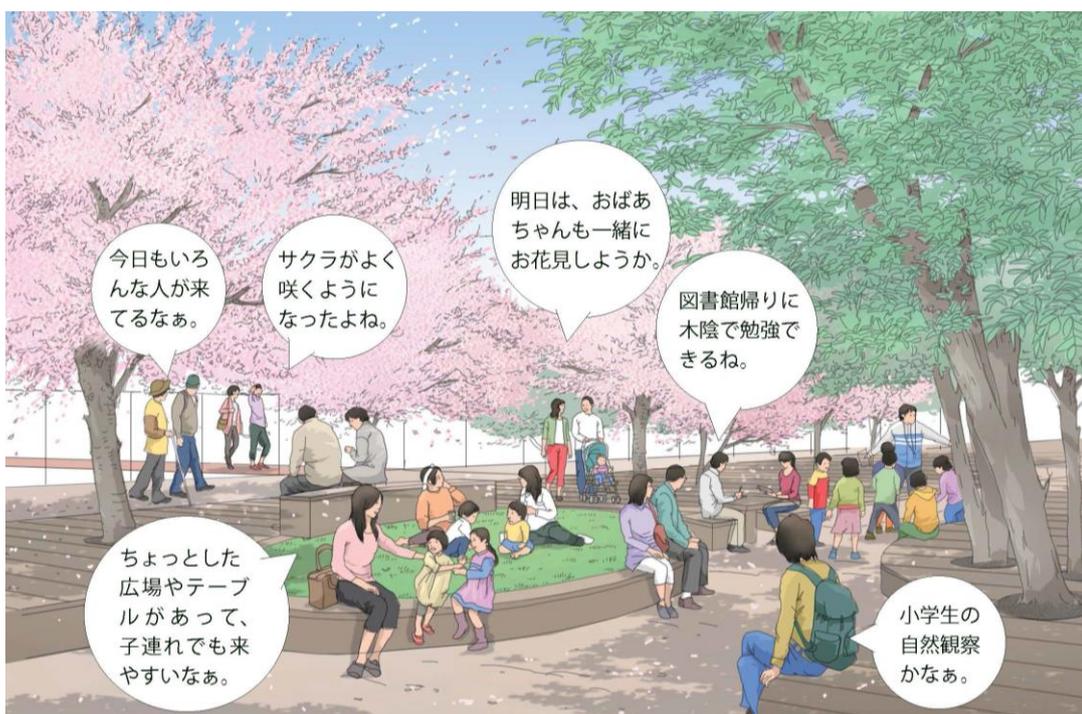
ゾーン	ゾーン別リ・デザイン方針	
サクラと憩いのゾーン	活動・文化を育む 仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茨木市民さくらまつり」における市民参加、利活用の促進</li> <li>・広場空間の創出と活用に関する市民参加の推進</li> </ul>
	植栽環境の健全化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のサクラの健全育成及び更新</li> </ul>
	利活用空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央図書館と緑地を結ぶ連絡道付近に、憩いの広場空間を創出</li> </ul>
文化・交流シンボルゾーン	活動・文化を育む 仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「次なる茨木・グランドデザイン」と連携した市民参加、利活用の促進</li> <li>・「茨木市民さくらまつり」における市民参加、利活用の促進</li> <li>・川端康成文学館と連携した市民参加、利活用の促進</li> <li>・利用マナーや清掃に関する市民活動の推進</li> </ul>
	植栽環境の健全化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木を活かした樹林景観の育成</li> <li>・安全性を高める植栽管理</li> <li>・既存のサクラの健全育成及び更新</li> </ul>
	利活用空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹木の下を活かした利活用空間の創出</li> </ul>
サクラと暮らしのガーデンゾーン	活動・文化を育む 仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茨木市民さくらまつり」における市民参加、利活用の促進</li> <li>・市民参加型の花づくりの促進</li> <li>・利用マナーや清掃に関する市民活動の推進</li> </ul>
	植栽環境の健全化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のサクラの健全育成及び更新</li> <li>・季節が感じられる植栽の充実</li> </ul>
	利活用空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民参加によるアヤメの植栽の再生及び利活用空間の創出</li> </ul>
庭園・レクリエーションゾーン	活動・文化を育む 仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭園や梅園の市民利用の促進</li> </ul>
	植栽環境の健全化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭園、ウメ、モミジ、サクラを活かした四季の景観づくり</li> <li>・梅園の景観の向上</li> </ul>
	利活用空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅園を活かした利活用空間の創出</li> </ul>

## 5) 各ゾーンの利活用イメージ

市民ワークショップでの検討に基づき作成した、各ゾーンのリ・デザイン後の利活用イメージを以下に示す。

### (1) サクラと憩いのゾーン

木陰に腰掛けて憩う、図書館帰りに読書やおしゃべりを楽しむ、芝地で幼児を遊ばせる、サクラの開花シーズンにお花見やイベント会場として用いるといった利用が想定される。



【図 利活用イメージ（市民ワークショップにて検討）】

#### ■第3回市民ワークショップの主な意見

##### こんなふうに使いたい！

「中央図書館で本を借りて、木陰で読書や散歩。」「親子で利用。」「野鳥を鑑賞して楽しむ。」「小学校や幼稚園が、自然観察会等を行うことができる。」「お花見を楽しむ。」「自転車が通らず安心して利用できる。」

##### もっとこんな場所にしたい！

「老木化したサクラを植え替える。」「サクラ以外の樹木もあれば。」「サクラの下を芝生化。シバザクラもよいのでは。」「木のチップを敷いた場所や園路。」「雨の日でもすごせる屋根。」「運動できるスペースや遊べる広場。」「災害用のトイレがあると安心。」

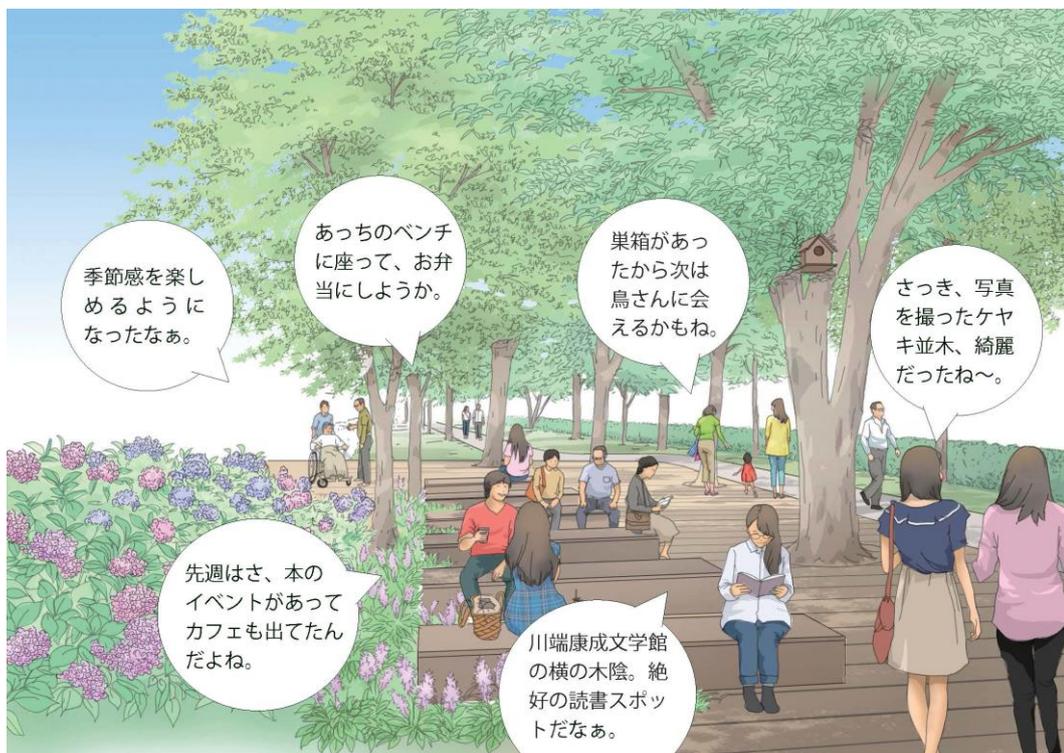
##### 気になることも・・・

「根を痛めないように提案されているウッドデッキは、木製だと痛みやすいし、維持管理が大変なのは。」

## (2) 文化・交流シンボルゾーン

### ①利活用イメージ（川端康成文学館付近）

木陰での休憩や読書、談笑、川端康成文学館と連携した文化的なイベント等市民交流の場としての利用が想定される。



【図 利活用イメージ（市民ワークショップにて検討）】

#### ■第3回市民ワークショップの主な意見

##### こんなふうに使いたい！

「樹木の下で本を読んだり、ランチをしたり、休憩したり。」「文化をテーマにしたイベント会場に。」「子どもの環境学習の場に。」「ケヤキの木陰で気持ちよくすごす。」

##### もっとこんな場所にしたい！

「バラのアーチを美しく！」「草花も欲しい。」「ヤエザクラもあれば。」「巣箱の設置。」「元茨木川が河川だったころの様子が見られる施設があれば。」「“樋”の説明板を。」「雑貨店やカフェを誘致できないか。」「川端康成の作品のワンシーンを再現するのもよいのでは。」

##### 気になることも・・・

「サクラを圧迫しているカシノキは間伐する方がよいのでは。」「園路の水はけがもっとよくなれば。」

## ②利活用イメージ（東中条付近）

緑陰や紅葉を楽しみながら、散歩やジョギング、談笑、イベント会場等への利用が想定される。



【図 利活用イメージ（市民ワークショップにて検討）】

### ■第3回市民ワークショップの主な意見

#### こんなふうに使いたい！

「美しく明るくなった空間で、ベンチや芝生の地面に座ってゆっくりする。」

「複数人が一緒に談笑できる。」「子どもが遊んでいる姿を安心して見守れる。」「枯葉の活用が考えられないか。」「マナーを守って安全に自転車を利用。」

#### もっとこんな場所にしたい！

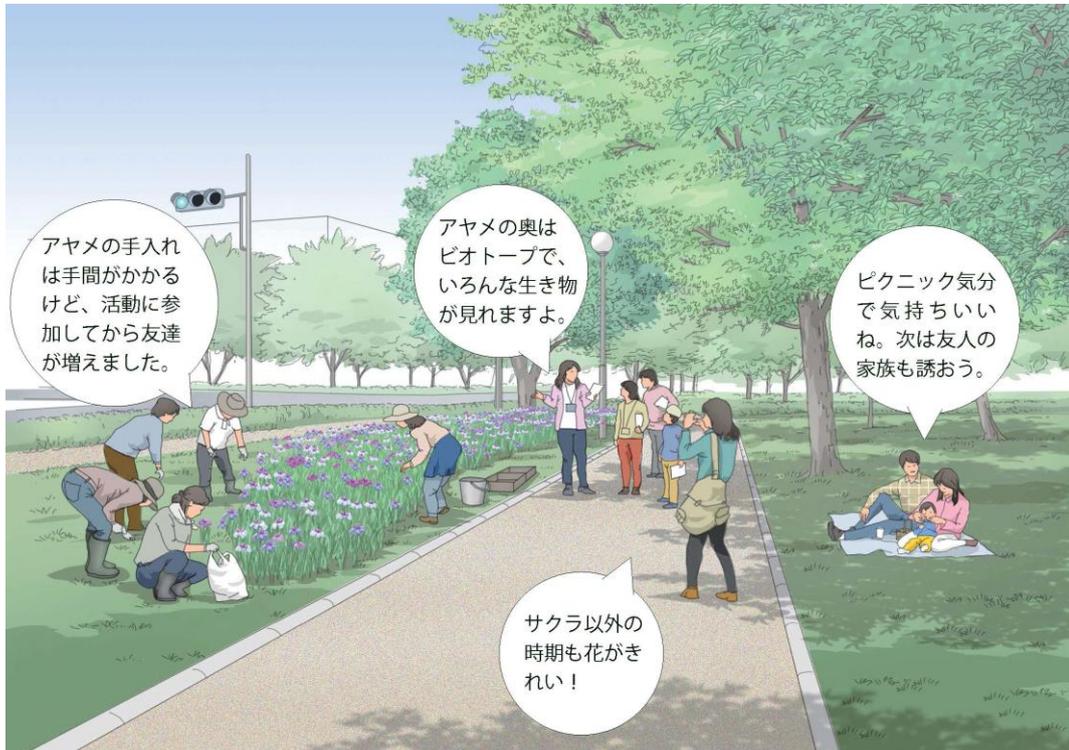
「明るくて見通しを良く。」「丈夫なハイブリッド芝生や市花のバラ園があれば。」「親水性の舗装に。」「中央公園との行き来がよくなれば。」「自転車を気にせず歩ける場所を増やす。」「自転車道があれば。」「図書コーナーを設けてはどうか。」

#### 気になることも・・・

「基本は遊歩道で、自転車道ではない。」「犯罪がおきないように。」「災害で倒木があった箇所は、新たに樹木を植えてはどうか。」「モニュメントの撤去や新設は市民投票で決めればどうか。」「下水処理場の匂いを感じる時も。」

### (3) サクラと暮らしのガーデンゾーン

市民参加によるアヤメの手入れ、木陰でのピクニック、サクラやアヤメの花を楽しむ利用が想定される。



【図 利活用イメージ（市民ワークショップにて検討）】

#### ■第3回市民ワークショップの主な意見

こんなふうに使いたい！

「レジャーシートを敷いて花をめでたい。」「市民が手入れに参加する手作りの花壇“オープンガーデン”。」「湿地のビオトープがあって、老人が子どもにレクチャー。老人も懐かしんで観察している。」「地域住民による利用活性化。」「水景施設の活用。」

もっとこんな場所にしたい！

「アヤメとショウブを植えたい。」「クチナシやキンモクセイを楽しみたい。」「サクラに名札を付ける。」「サクラの根元の土留めや、老いたサクラの伐採。」「ベンチを増やしてきれいに。」「水景施設の復活。」

気になることも・・・

「花の植栽は維持管理が大変。」「佐和良義神社の周辺をもっときれいに。」

#### (4) 庭園・レクリエーションゾーン

散策やランニング、木陰での休憩、ウメの開花や結実シーズンにイベント会場として用いるといった利用が想定される。



【図 利活用イメージ（市民ワークショップにて検討）】

##### ■第3回市民ワークショップの主な意見

こんなふうに使いたい！

「ウメ、オリーブの収穫祭を開いては。」「静かに落ち着いた場所で、本を読む。」

「お弁当を持って子どもとピクニックがしたい。」

もっとこんな場所にしたい！

「梅林をもっと活かしたら。もっとPRを。」「日本庭園の復活を。」「サクラを圧迫している樹木の間伐が必要では。」「今後の気温上昇を考えると緑が多い方がよいのでは。」「樹木の説明板があれば。」「太鼓橋の復元を。」「園路の補修を。」「民家から離れているので、バーベキューエリアを設けては。」

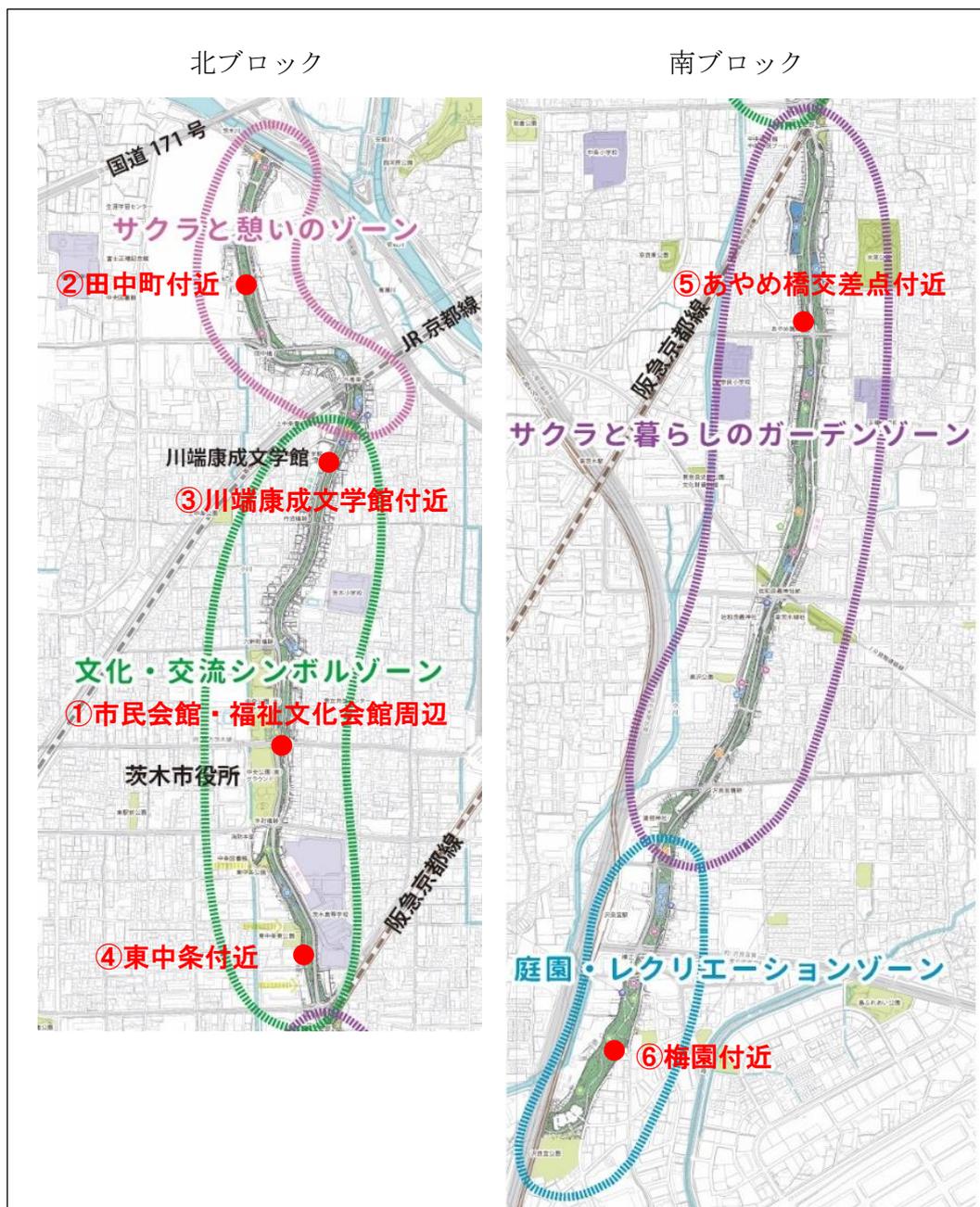
気になることも・・・

「工場の騒音や臭いを感じるときがある。」「早朝や未明に若者がタバコを吸いにきているときもある。」「交通機関が便利になれば。」「自転車道がある方がよい。せめて自転車を押して歩いて欲しい。」

6) モデル箇所リ・デザイン検討

(1) モデル箇所

モデル箇所を設定し、リ・デザインを検討した。モデル地区は、市民ワークショップでも関心があり、多様な人の関わりが期待できる箇所や、周辺施設との連携や相乗効果が期待できる箇所、市民へのPR効果が期待できる箇所として、以下の6箇所を設定した。



【図 モデル箇所】

## (2) モデル箇所の現況及び計画案

モデル箇所の植栽や施設の現況及び計画案について、以下に示す。各箇所の現況図及び計画平面図案を p.35 以降に示す。(「①市民会館・福祉文化会館周辺(文化・交流シンボルゾーン)」については、連携イメージを示す。)

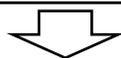
### ①市民会館・福祉文化会館周辺(文化・交流シンボルゾーン)

#### ■現況

阪急茨木市駅と JR 茨木駅をつなぐ府) 枚方茨木線と緑地が交差する箇所で、ランドデザインにおいて、「都市と自然が次いでいる場所(拠点)」として位置づけられており、市民会館跡地エリア活用の整備が進められている。

交差点の北側は、サクラ(ソメイヨシノ)が主に植えられている。南側は、常緑の高木及び中低木が密に植栽されており、車道との緩衝緑地としての機能が感じられる。園路、植栽地、周辺環境に高低差があり、複雑な地形である。

散歩やジョギング、移動のための通行利用が多く、自転車の通行も多い箇所である。



#### ■計画案

「次なる茨木・ランドデザイン」が目指す「都市と自然が次いでいる場所(拠点)」に相応しい環境の創出に、関連部局と連携して取り組む。

### ②田中町付近(サクラと憩いのゾーン)

#### ■現況

田中橋交差点の 200m 程北側に位置し、比較的緑地の幅が広い箇所で、サクラ(ソメイヨシノ)を主とした植栽となっている。植栽地に、傾斜や園路との高低差があり、広場として利用しづらい環境である。

緑地の西側に、中央図書館からの連絡道の出入口が設けられることや、周辺にマンションなど住宅が増えていることから、今後利用者が増えると期待される。



#### ■計画案

木陰に座って憩え、多目的に利用できる広場空間を創出するため、ベンチやテーブル、フラットな芝地を整備する。また、樹木を囲うサークルベンチやウッドデッキを設ける等、サクラ等の樹木の根を痛めないよう配慮する。

### ③川端康成文学館付近（文化・交流シンボルゾーン）

#### ■現況

川端康成文学館及び上中条青少年センターの東側に位置し、クスノキやアラカシ等の常緑の高木が多く植えられている。緑陰がある一方で、日中でも薄暗い雰囲気である。散歩やジョギング、移動のための通行利用が多い。



#### ■計画案

川端康成文学館及び上中条青少年センターの前という立地特性を活かし、文化をテーマとした催し会場や、市民の交流場となる広場空間を創出するため、ベンチや縁台を設置し、イベント時にテントが張れるスペースを確保する。その際、既存の高木の根を痛めないよう部分的にウッドデッキを設け、根の保護に配慮する。

### ④東中条付近（文化・交流シンボルゾーン）

#### ■現況

東中条東公園の南側に位置する。緑地の西側はマンション、東側は桜通りに接している。植栽は、落葉樹を中心とした高木が密に植えられており、中低木はあまり見られない。園路の西側より東側の方が、植栽地が広く設けられている。

林の中を歩いているような雰囲気が感じられ、緑陰を楽しめる一方で、葉が茂る夏場に暗い印象を与える。

散歩やジョギング、移動のための通行利用が多く、自転車の通行も多い箇所である。



#### ■計画案

都市にいながら林の中にいるような環境を安心して楽しめる空間を創出するため、既存の園路以外に、樹木の下を歩ける小道を設けるほか、向き合って座れるベンチや距離標を設置する。植栽は、落葉高木の間引きや、視線の高さの中低木の除去により、現在より明るく見通しのよい環境にする。車道との境界の生垣は、隙間なく植え、自動車の車高程度の高さを維持する。

⑤あやめ橋交差点付近（サクラと暮らしのガーデンゾーン）

■現況

あやめ橋交差点の北西部に位置し、緑地の東側にバス停と休憩スペースが設けられている。交差点付近にアヤメが植栽されていた。その他、植栽は、園路の西側は高木、東側と園路沿は低木が中心となっている。交差点と接する緑地の出入口部分には、アラカシとトウカエデの高木の下に低木が茂っており、見通しが利かない状態となっている。

散歩やジョギング、移動のための通行利用が多く、自転車の通行も多い箇所である。



■計画案

花づくりを通じた市民交流や、日常的に利用できる木陰など、日々の暮らしの中で花や緑を楽しむ空間を創出するため、アヤメの植栽の再整備や、中低木を伐採し芝生などの草地とする。

⑥梅園付近（サクラと暮らしのガーデンゾーン）

■現況

沢良宜公園の駐車場から 100m 程北に位置し、緑地の西側は工場に接しており、東側は道路を挟んで営業所等が多く立ち並ぶ地域となっている。

植栽は、園路の東側が丘状になっており、様々な品種のウメが植えられている。園路の西側は、アラカシやクスノキ等の常緑樹を主とした植栽となっており、園路沿いには、サクラが植えられている。梅園の南西はケヤキ、北側はモミジを中心とした植栽が見られる。

木造の太鼓橋があり、この場所の特徴となっているが、老朽化が見られる。

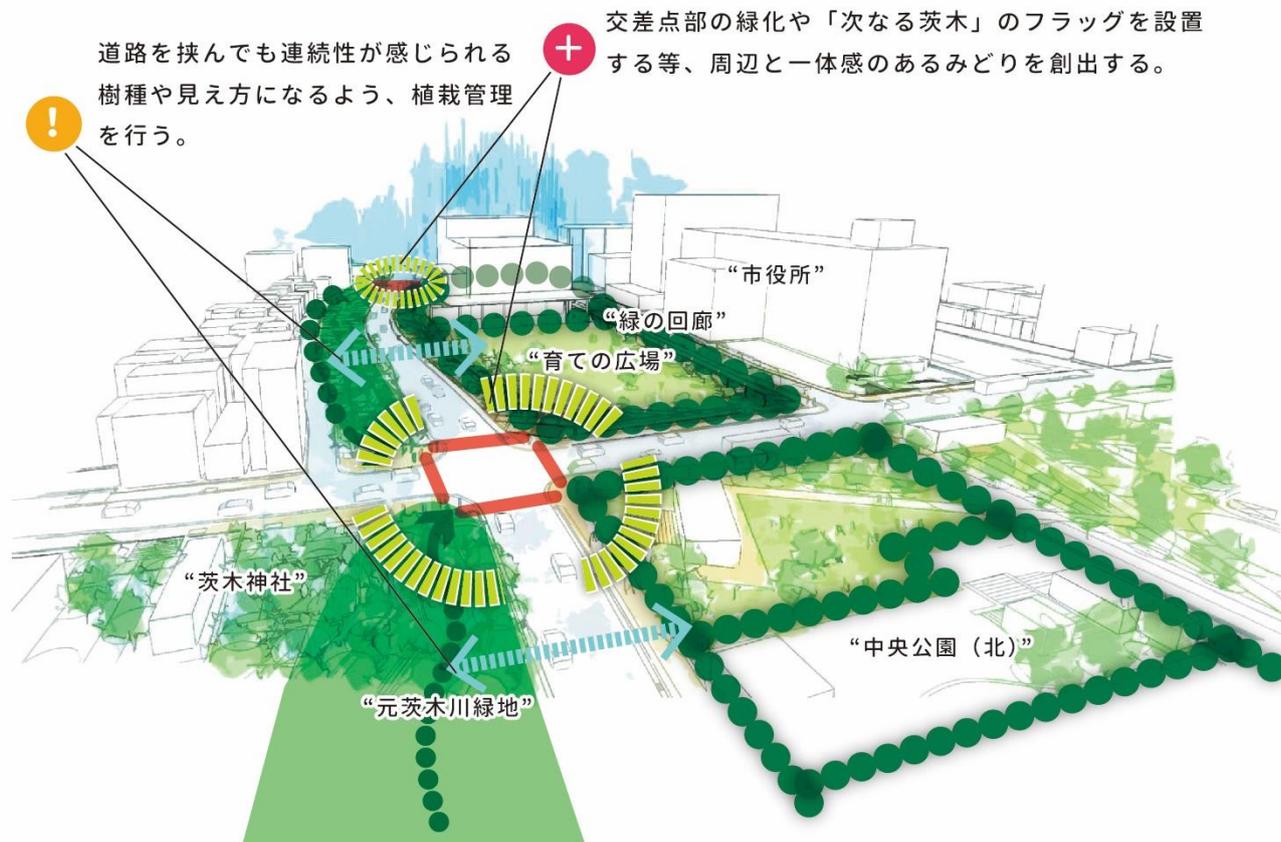
散歩やジョギングの利用が見られるが、緑地の他所と比べて少なく、移動のための通行利用も少ない。ウメの花が咲く時期には、花見の利用が見られる。



■計画案

梅園の魅力を高め、元茨木川緑地のサクラ以外の名所づくりや庭園風の雰囲気を楽しみながら安心してくつろぐことができる空間を創出するため、梅園への出入口や、梅園の中を通る散策路、休憩スペースを整備する。また、ウメの花を彩るスイセン等を植栽し、根の保護にも配慮する。

①市民会館・福祉文化会館周辺（文化・交流シンボルゾーン） 連携イメージ模式図



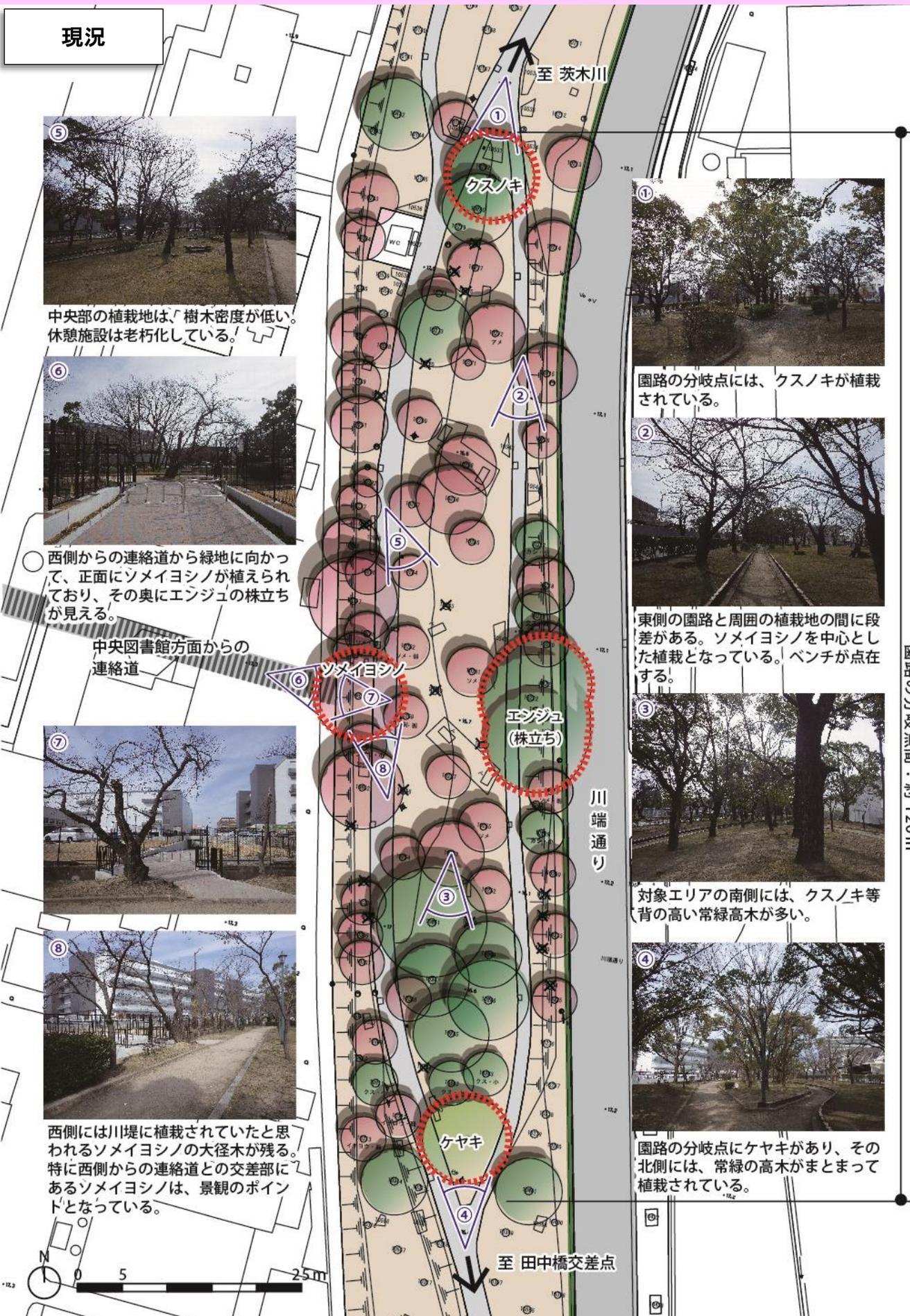
【図 連携イメージ模式図】

■市民ワークショップの主な意見

「中央公園は芝生化の計画もあるように聞いている。公園の周囲に並木を植えて、広場側に木陰が出来ると良い。緑地と一体的な空間にしてはどうか。」

「中央公園の東の道路沿いの緑地は必要なのか。」「茨木神社の横の下の段の園路が、雨でもぬかるまない道になるとよい。」

②田中町付近（サクラと憩いのゾーン） 現況図及び計画案平面図



現況



⑤ 中央部の植栽地は、樹木密度が低い。休憩施設は老朽化している。



⑥ 西側からの連絡道から緑地に向かって、正面にソメイヨシノが植えられており、その奥にエンジュの株立ちが見える。

中央図書館方面からの連絡道



⑧ 西側には川堤に植栽されていたと思われるソメイヨシノの大径木が残る。特に西側からの連絡道との交差点にあるソメイヨシノは、景観のポイントとなっている。



① 園路の分岐点には、クスノキが植栽されている。



② 東側の園路と周囲の植栽地との間に段差がある。ソメイヨシノを中心とした植栽となっている。ベンチが点在する。

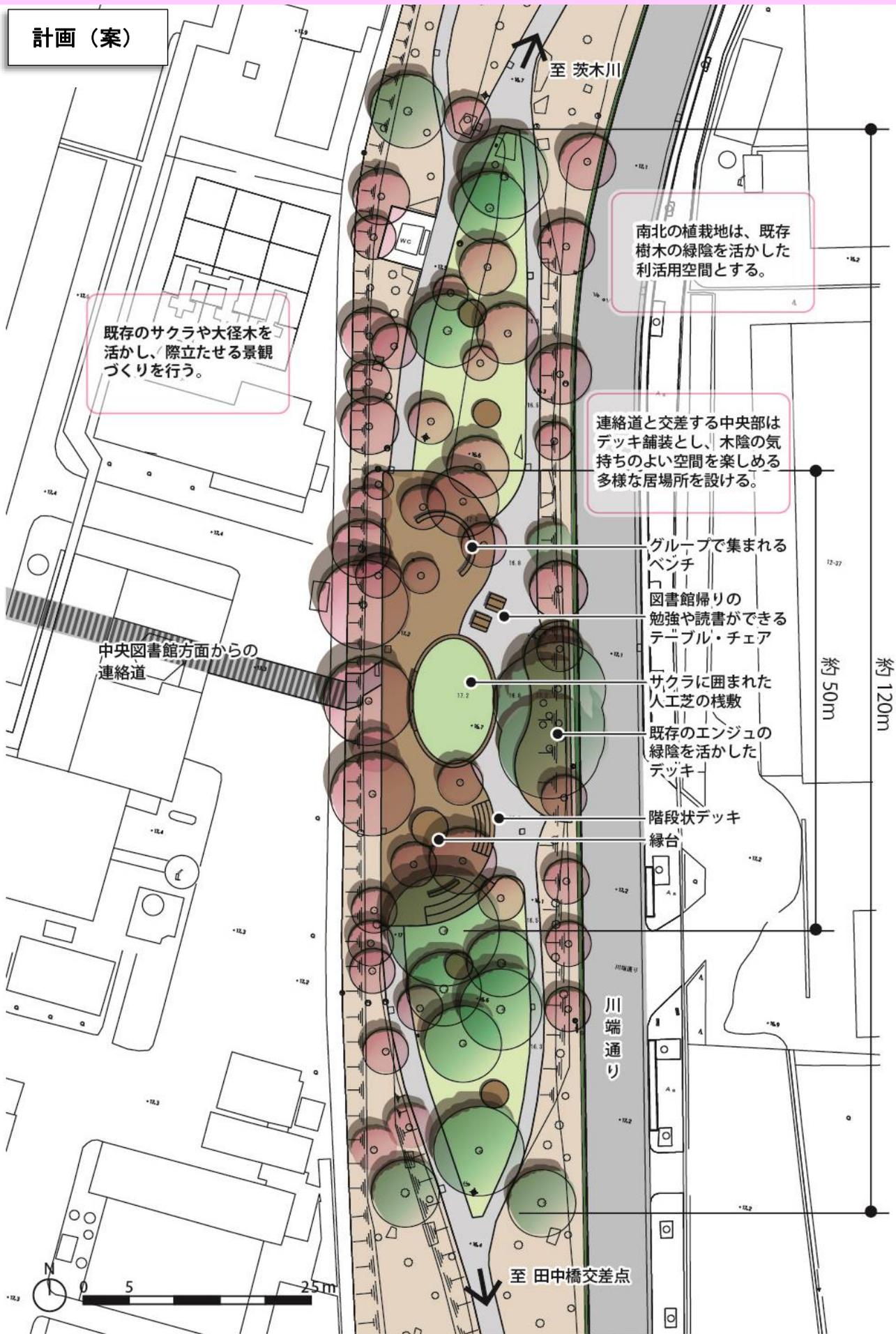


③ 対象エリアの南側には、クスノキ等背の高い常緑高木が多い。



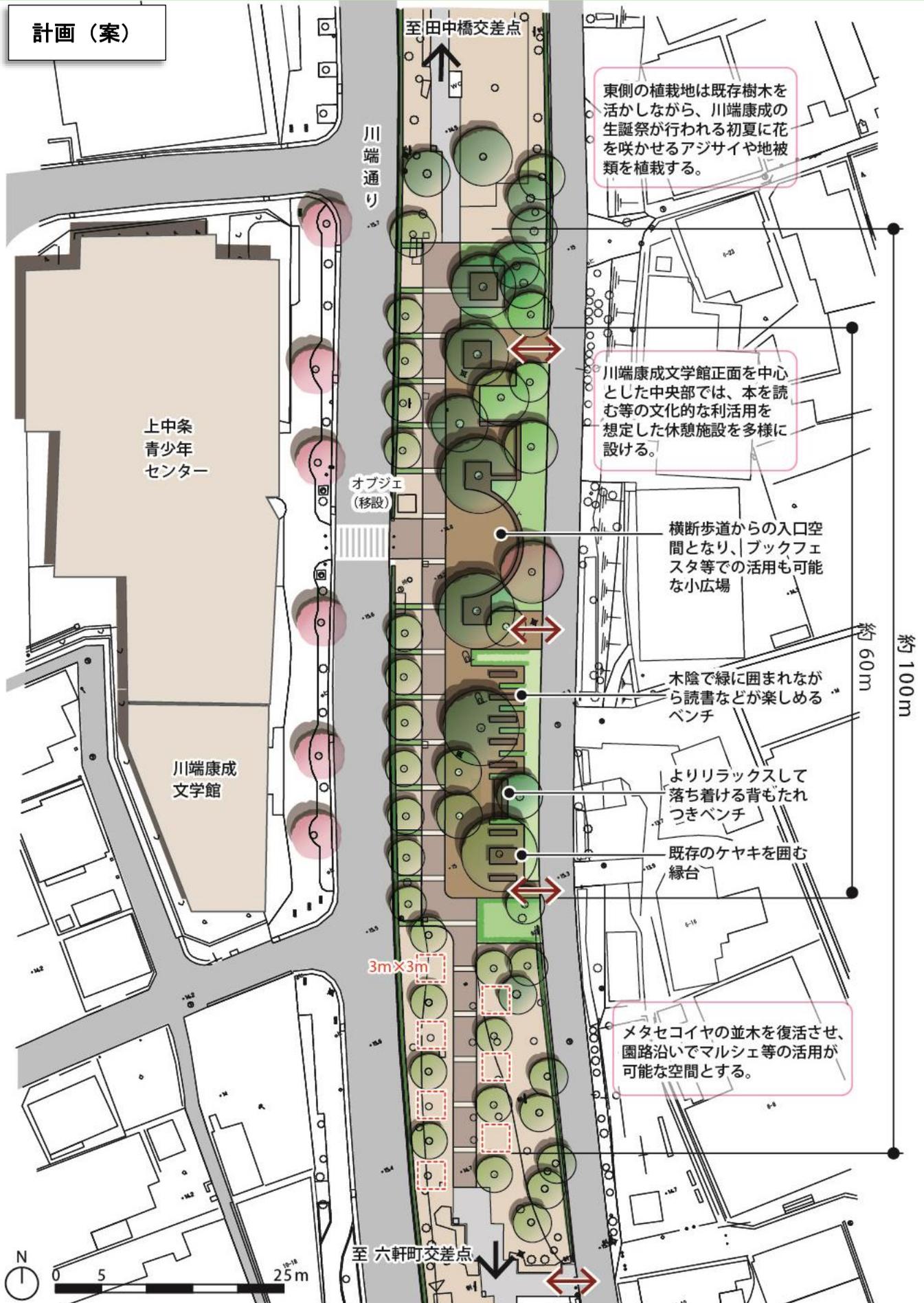
④ 園路の分岐点にケヤキがあり、その北側には、常緑の高木がまとめて植栽されている。

園路の分岐点間：約 120m

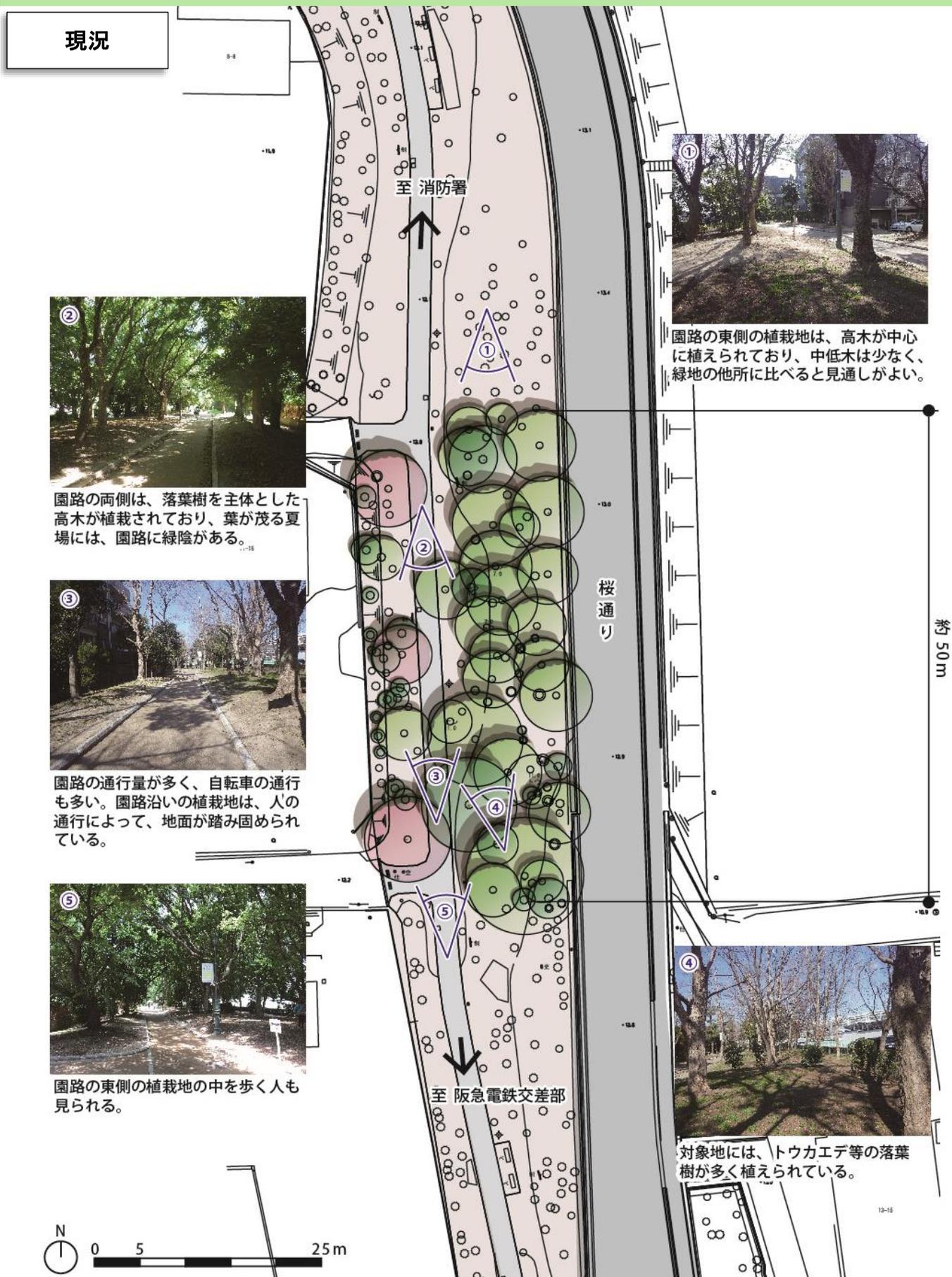


③川端康成文学館付近（文化・交流シンボルゾーン） 現況図及び計画案平面図

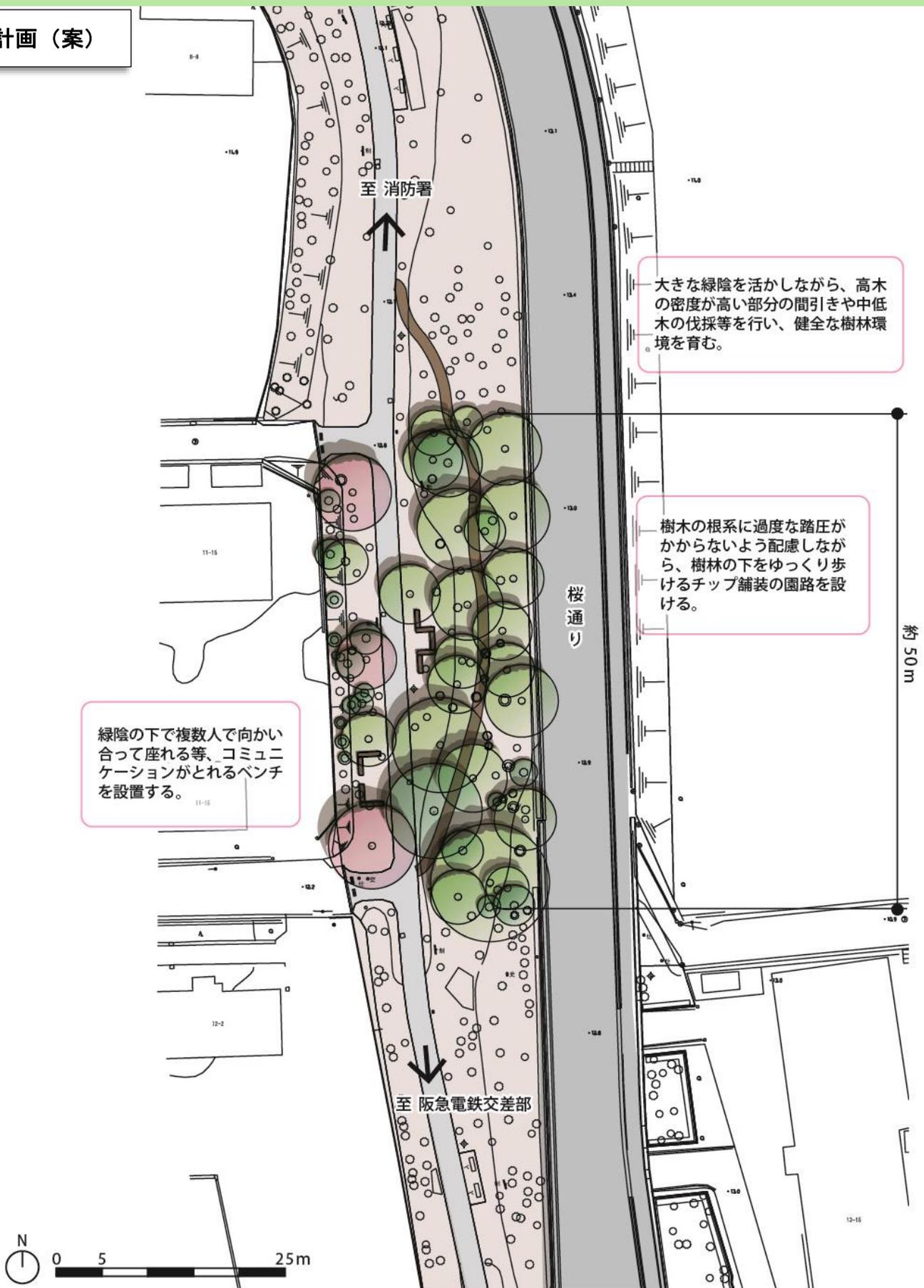




④東中条付近（文化・交流シンボルゾーン） 現況図及び計画案平面図



計画 (案)



⑤あやめ橋交差点付近（サクラと暮らしのガーデンゾーン） 現況図及び計画案平面図

現況



① 園路沿いと園路の東側には、低木が多く植えられている。



② バス停の近くにベンチが設置されているが、老朽化している。



⑦ あやめ橋交差点から、緑地内の園路が見えにくい。



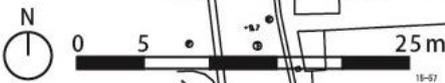
③ 園路の西側（住宅地側）には、常緑樹とソメイヨシノが多く植えられている。



④ 以前アヤマゲが植栽されていた箇所は、特に植栽はされておらず草地となっている。



⑤ 緑地への出入口には、園路の両側にアメリカフウとアラカシが植えられている。



計画(案)

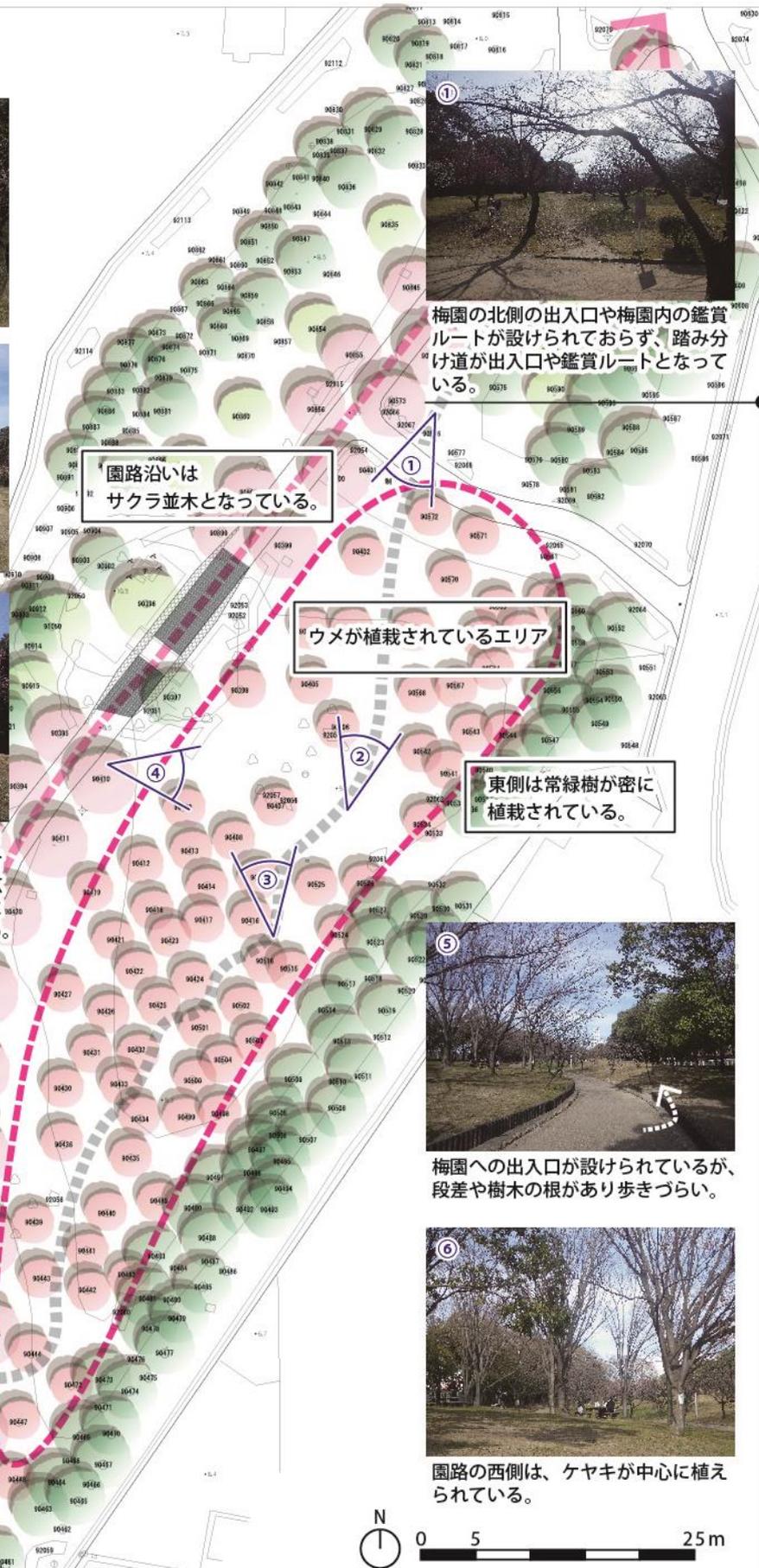


⑥梅園付近（庭園・レクリエーションゾーン） 現況図及び計画案平面図

現況



園路より2m程度高い丘となっており、梅園となっている。丘の頂上付近は、石が配置された庭園風の小広場となっている。ウメの開花時期には、花見に訪れる利用も見られる。



園路沿いはサクラ並木となっている。

ウメが植栽されているエリア

東側は常緑樹が密集に植栽されている。

ケヤキの木立のエリア



梅園の北側の出入口や梅園内の鑑賞ルートが設けられておらず、踏み分け道が出入口や鑑賞ルートとなっている。



梅園への出入口が設けられているが、段差や樹木の根があり歩きづらい。

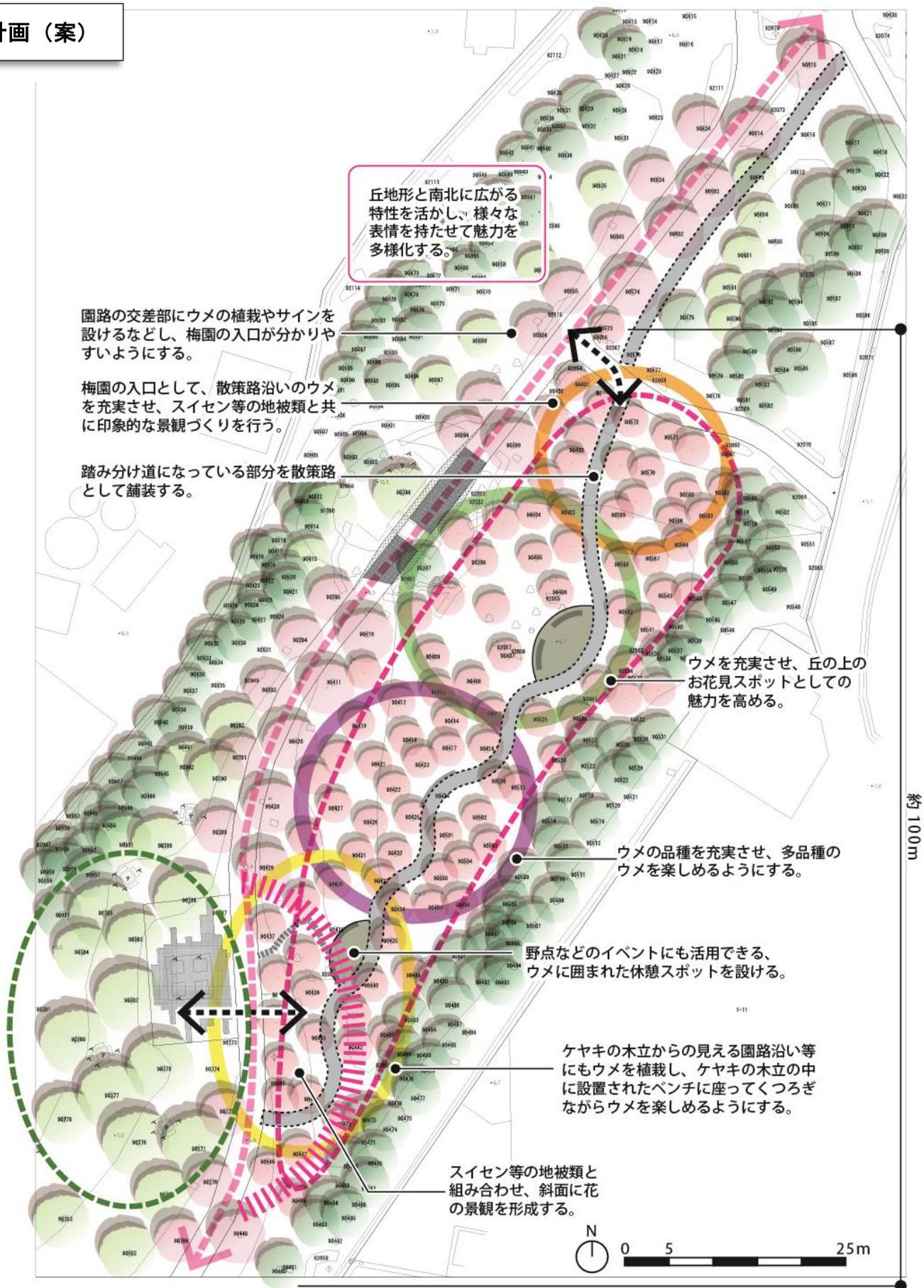


園路の西側は、ケヤキが中心に植えられている。

約100m



計画 (案)



### 3. 管理運営計画

#### 1) 植栽管理計画

##### (1) リ・デザインが目指す望ましい植栽環境

リ・デザインが目指す望ましい植栽環境を以下に示す。

【表 望ましい植栽環境】

サクラが楽しめる	<ul style="list-style-type: none"><li>元茨木川緑地全体を通して、サクラが楽しめる植栽環境</li><li>サクラが健全に生育することのできる植栽環境</li></ul>
明るくて見通しがきく	<ul style="list-style-type: none"><li>現況の植栽を活かしつつ、明るくて見通しがきく植栽環境</li></ul>
四季を楽しめる	<ul style="list-style-type: none"><li>元茨木川緑地全体を通して、花、新緑、紅葉といった四季が楽しめる植栽環境</li></ul>
利活用できる広場等の空間がある	<ul style="list-style-type: none"><li>樹木の下を、散策や休憩、ピクニック、イベントなどに利活用できる空間がある植栽環境</li></ul>
今のまま	<ul style="list-style-type: none"><li>防犯及び防災面など必要最低限の可変にとどめ、現況の植栽が健全に生育できる植栽環境</li></ul>

桜が楽しめる

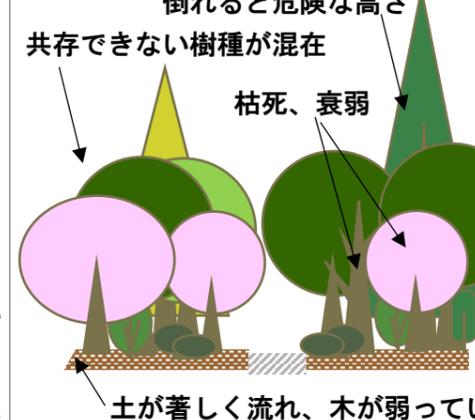
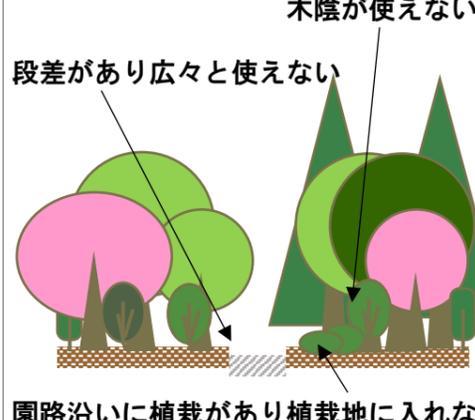
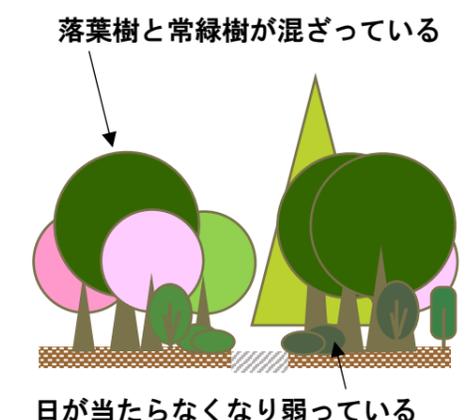
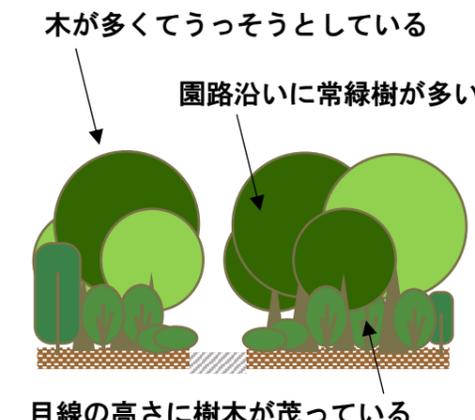
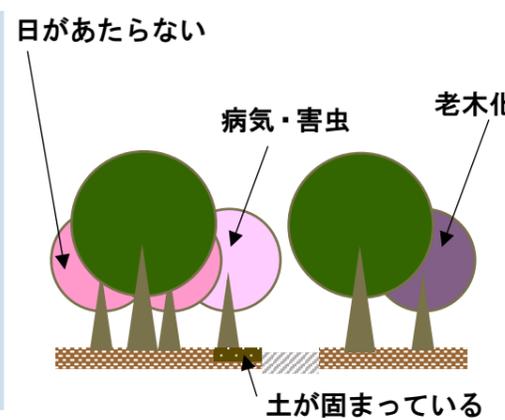
明るくて見通しがきく

四季を楽しめる

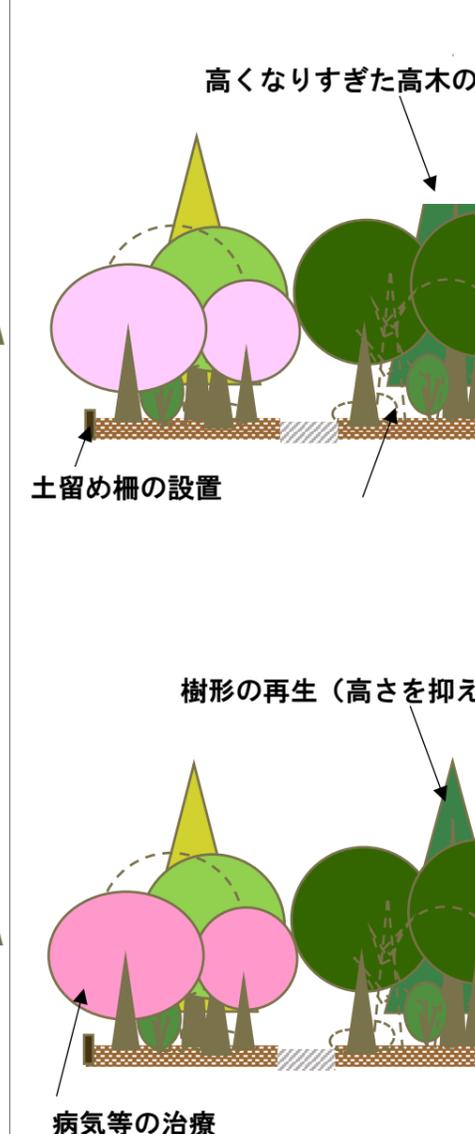
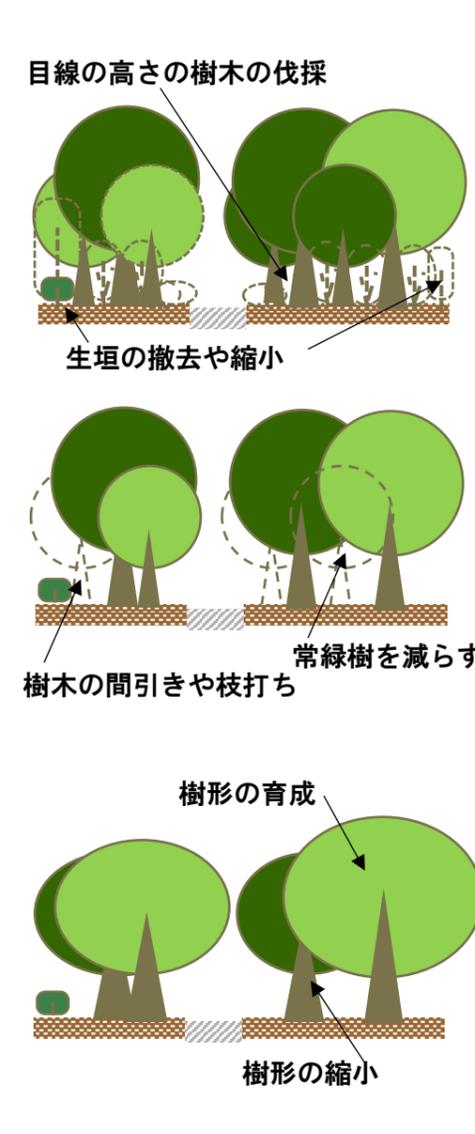
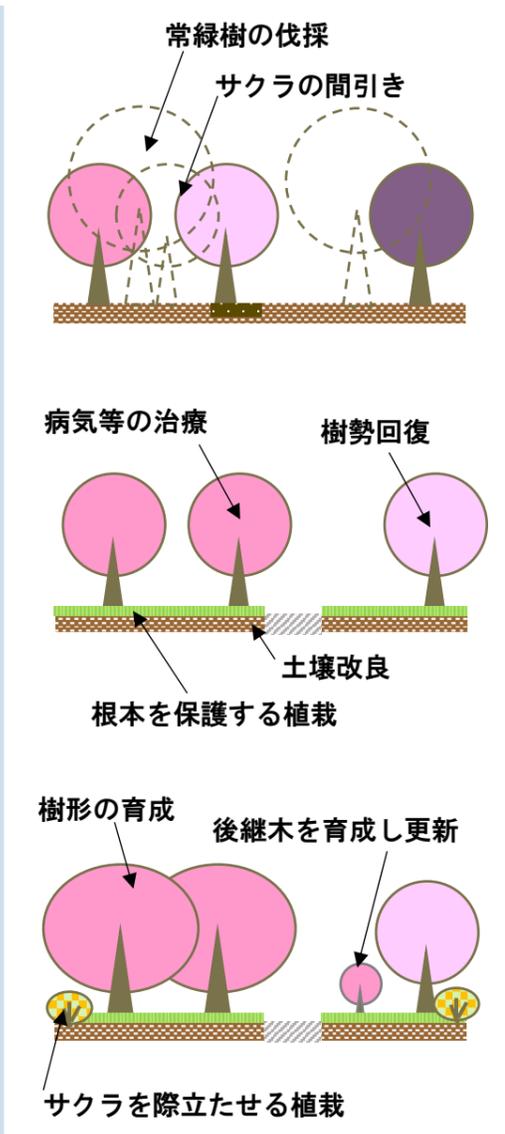
利活用できる広場  
等の空間がある

今のまま

現状の  
課題



手法例



【図 望ましい植栽環境に合わせた管理手法例】

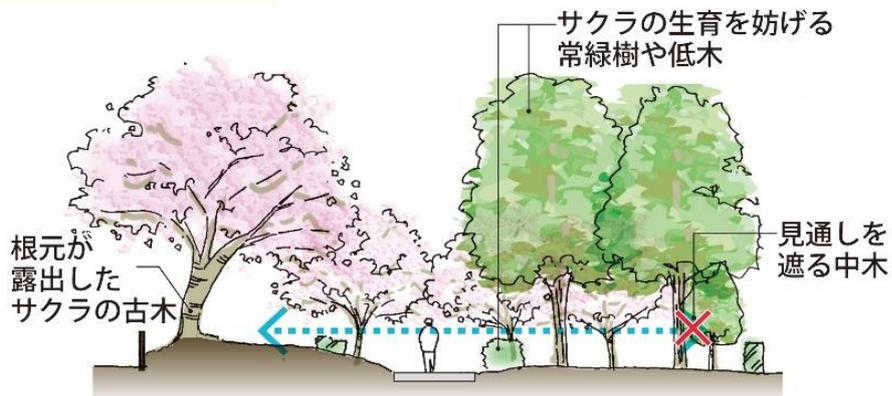
(2) 植栽管理リ・デザイン方針

植栽管理では、以下の植栽管理のリ・デザイン方針に基づき、植栽環境の健全化を目指す。

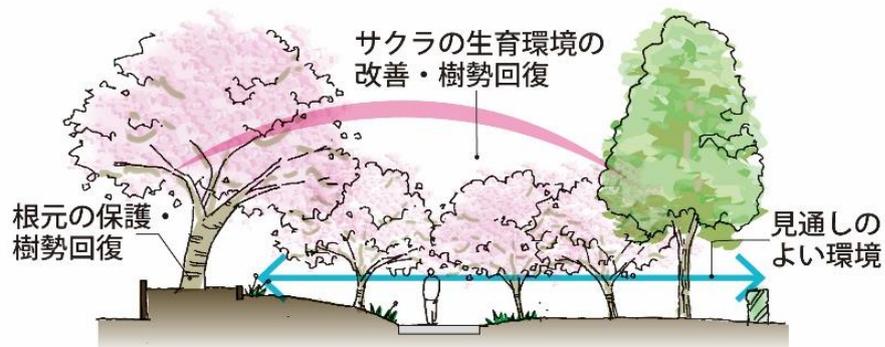
■植栽管理リ・デザイン方針

- 残すべき樹木を見極めながら、景観・季節感の向上や樹木の生育、生活環境の安全性の確保や、自然災害時のリスク軽減の視点から、樹木密度管理による健全な植栽環境づくりを行う。
- 利活用にも適した健全な植栽環境づくりを行う。(例えば、花見利用に適した植栽環境、自然学習に適した植栽環境など)

イメージ断面 (現況)



イメージ断面 (将来)



【図 植栽管理リ・デザインのイメージ断面図】

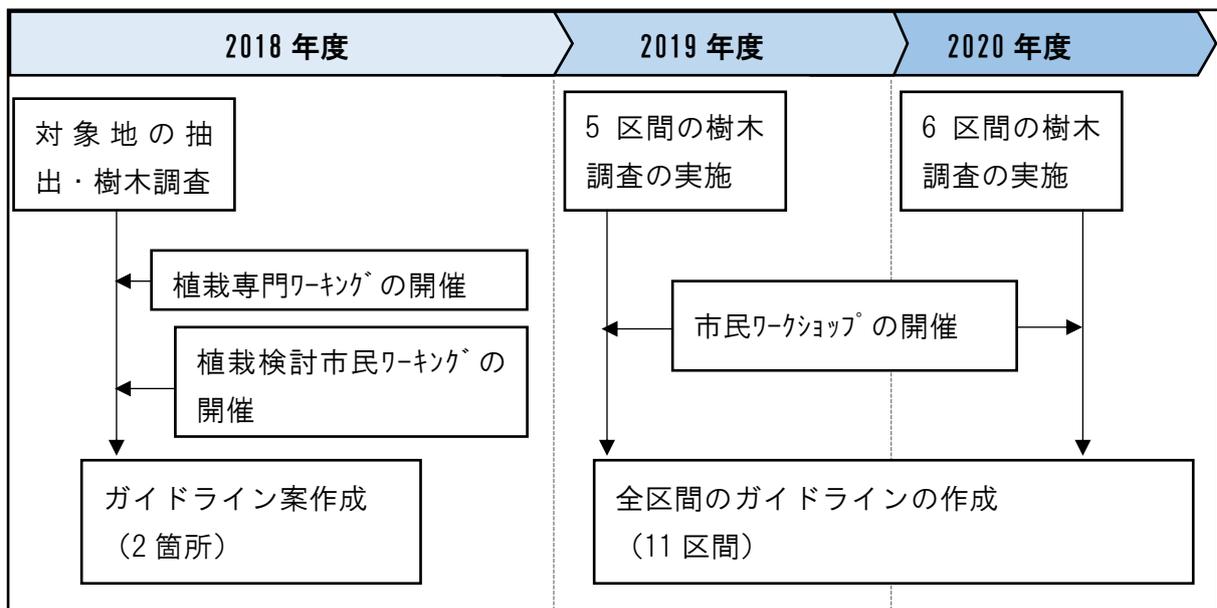
(3) 植栽管理ガイドラインによる管理

現況及びゾーンの特性にあわせ、目標植栽、植栽管理の方針、目標植栽を具現化するための手法等を植栽管理シートにまとめた「植栽管理ガイドライン」を作成し、その内容に基づき植栽管理を行う。

【表 植栽管理ガイドラインの構成】

構成	内容
現況の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況の特性一覧</li> <li>・現況植栽図面</li> <li>・現況植栽リスト</li> <li>・現況写真</li> </ul>
管理目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標</li> <li>・目標像をフォトモンタージュで表したもの</li> <li>・季節ごとの主な見頃の植栽</li> </ul>
管理方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理方針をフォトモンタージュに示したもの</li> <li>・必要に応じて部分的な平面図</li> <li>・密度、樹高、高・中・低木の構成、景観を代表する樹種に関する方針</li> </ul>
リ・デザイン管理手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植栽リ・デザイン手法（基盤改良、樹勢回復、樹形縮小剪定等）</li> </ul>
リ・デザイン年次計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リ・デザイン管理手法の年次計画</li> </ul>
日常維持管理計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リ・デザイン後の日常維持管理計画</li> </ul>
点検計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹木健全度等の点検について</li> </ul>

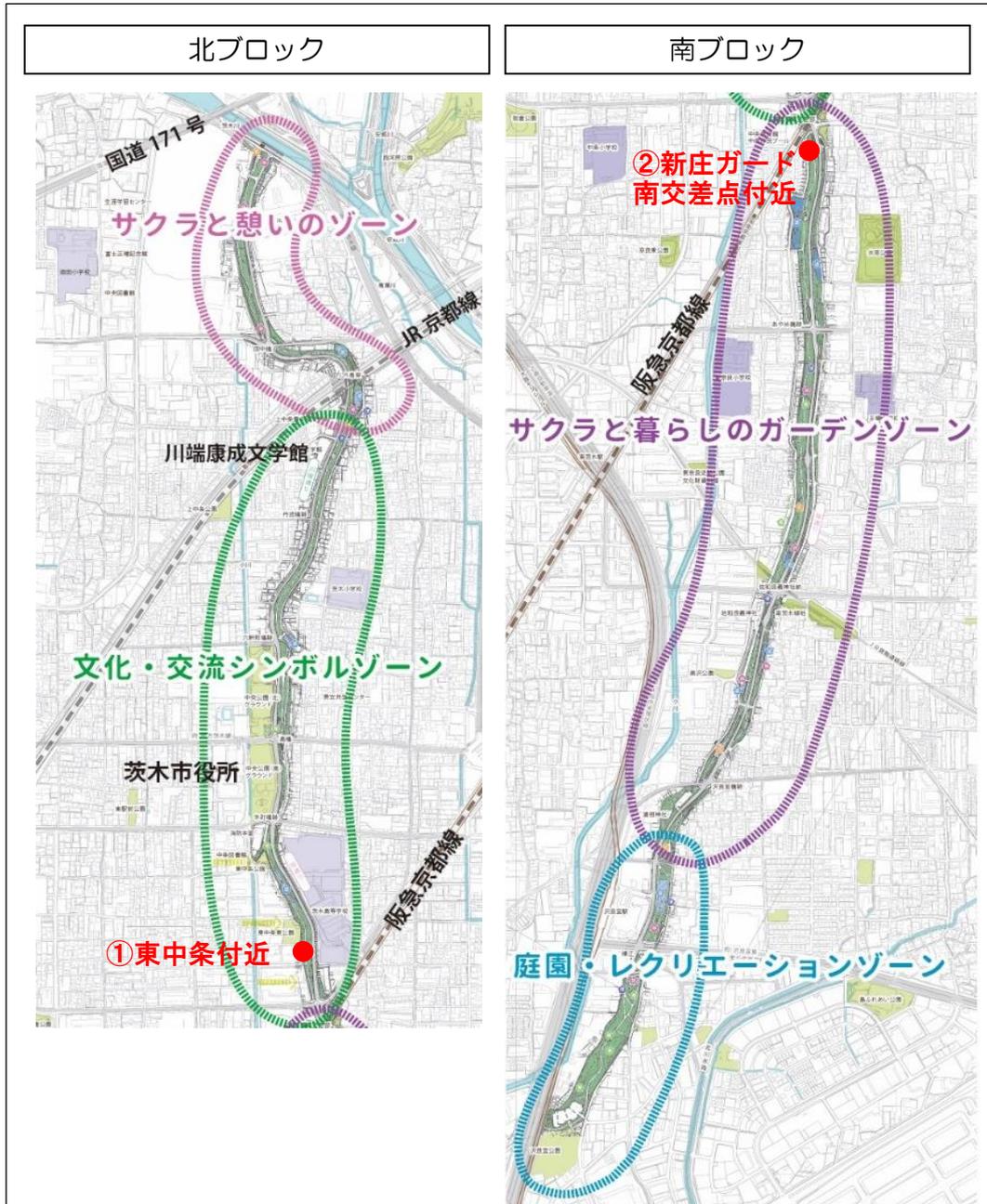
【表 植栽管理ガイドライン作成スケジュール】



### 3. 管理運営計画

#### (4) 植栽管理ガイドライン案の検討

今後の植栽管理ガイドラインの参考となるよう、成長した高木を活かした植栽管理と、サクラを中心とした植栽管理について検討することができる以下の2箇所を選び、植栽管理ガイドライン案を作成した。



【図 植栽管理ガイドライン案作成箇所】

## ① 東中条付近植栽管理ガイドライン案

## 〔1〕 現況の特性

対象地は、落葉高木を中心とした植栽となっている。その他、現況の特性を以下に示す。

【表 対象地の現況一覧】

項目	現況
構成	高木が中心となっている。
植栽密度	高木の植栽密度が高く、樹間が狭い。 <b>【良い点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林のような雰囲気がある。</li> <li>・夏場に緑陰がある。</li> </ul> <b>【課題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枝が徒長し折れやすくなる。</li> <li>・葉が茂ると暗い印象になる。</li> </ul>
植栽の特徴	落葉高木が多く、樹高が 15m 以上のものも多い。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケヤキ、トウカエデ、アキニレ等</li> </ul>
	中木は小さく刈り込まれ低木は見られず、樹下の見通しはよい。
	車道との境界に沿って高さ 0.8m 程の生垣があるが、生垣が途切れている箇所も見られる。
	園路沿いや住宅側の植栽地で部分的に土砂が流出し、根が露出しているものも見られる。
	園路の東側の植栽地には、ウッドチップが敷かれている。ウッドチップの量が多すぎると根に悪影響が生じるため、新たにウッドチップを敷くことは、現在休止されている。

3. 管理運営計画

■ 現況植栽図面・現況植栽リスト・現況写真

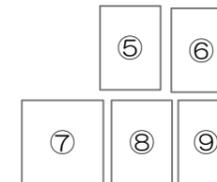
-  高さ15m
-  常緑樹
-  樹勢異常（目視による確認）

※図中、樹種名の下の数値は、樹高（m）を示す。



記号	樹種名
	常緑高木
アラ	アラカシ
クス	クスノキ
シラ	シラカシ
ヤモ	ヤマモモ
	常緑中木
カイ	カイズカイブキ
キョウ	キョウチクトウ
キン	キンモクセイ
サザ	サザンカ
サン	サンゴジュ
ツバ	ツバキ
ナサ	マサキ
ウバ	ウバメガシ
	落葉高木
アキ	アキニレ
ケヤ	ケヤキ
セン	センダン
ソメ	ソメイヨシノ
タフ	タイワンフウ
トウ	トウカエデ
ナン	ナンキンハゼ
	落葉中木
ムク	ムクゲ

・平成30年の台風21号により、幹折れ木や倒木が発生した。



〔2〕管理目標

現況の落葉高木を活かし、以下の管理目標を掲げる。

【表 管理目標】

管理目標	都市の中の林を快適に楽しめる緑地		
目標像			
■現況			
			
■将来像			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 新緑や紅葉が楽しめる落葉樹を主体とした緑地</li> <li>➤ トウカエデ、ケヤキ、アキニレ等の樹形を美しく育てる</li> <li>➤ 見通しが良く活用しやすい樹下空間の形成</li> </ul>		
季節ごとの主な見頃の植栽			
春	サクラ、ケヤキ、トウカエデ、アキニレ	秋	キンモクセイ、サクラ、ケヤキ、トウカエデ、アキニレ
夏	ムクゲ、ヤマモモ、ケヤキ、トウカエデ、アキニレ	冬	ツバキ、サザンカ

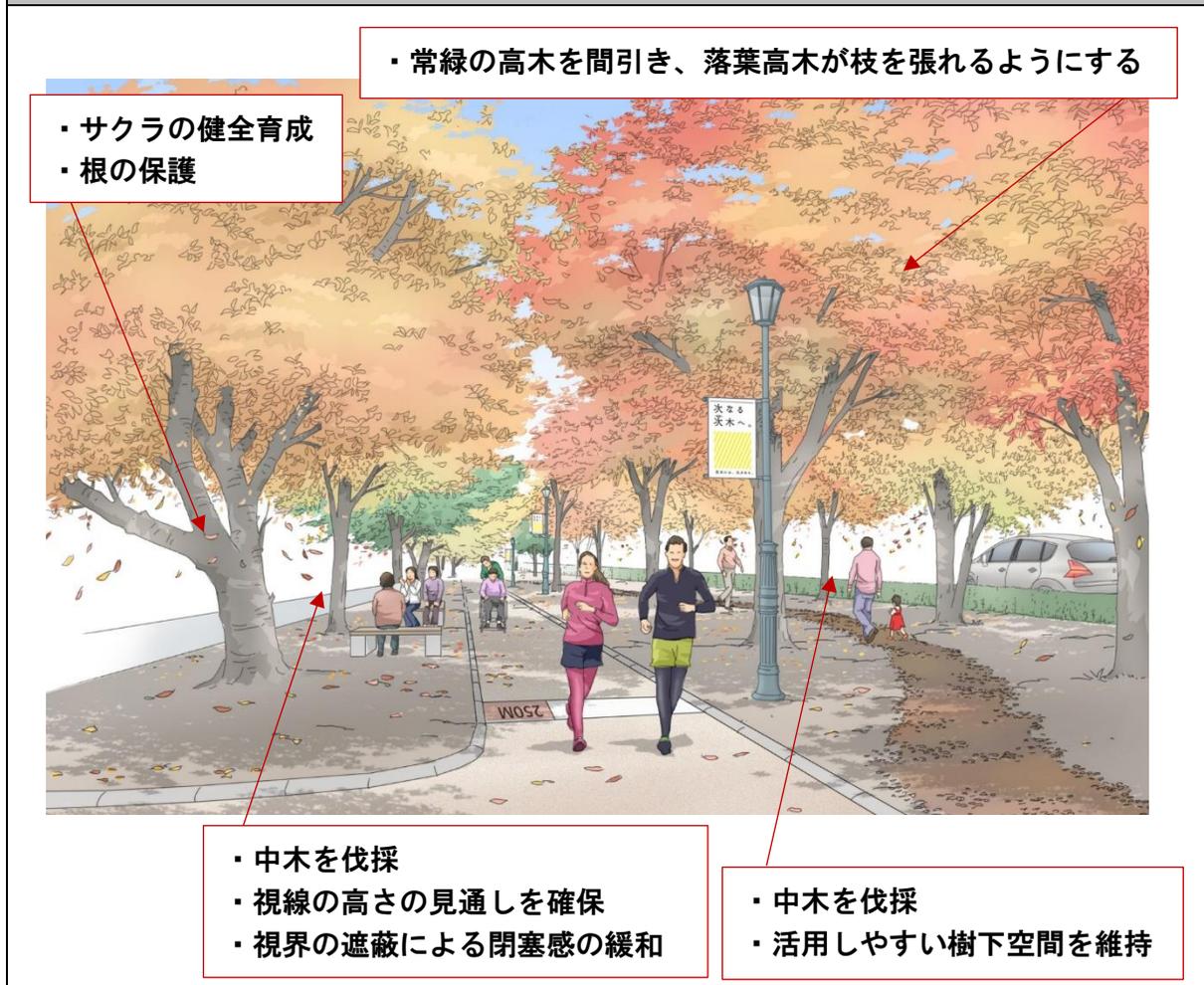
〔3〕 管理方針

管理目標の「都市の中の林を快適に楽しめる緑地」を目指し、管理を行う上での方針を以下に示す。

【表 管理方針】

管理方針 1	<p>風格のある落葉高木林の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落葉高木の健全育成</li> <li>・ まとまった落葉樹林としての樹形育成及び景観形成</li> </ul>
管理方針 2	<p>新緑と紅葉が美しい樹林環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落葉高木の樹形育成</li> <li>・ 紅葉の背景となる車道沿いの生垣の適正管理（補植、高さの管理）</li> </ul>
管理方針 3	<p>見通しが良く活用しやすい樹下空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視線の高さの見通しの確保</li> <li>・ 高木の下に点在する中木類の整理</li> </ul>

管理方針フォトモンタージュ



**〔4〕 リ・デザイン管理手法**

管理目標とする植栽環境を実現し、植栽環境をリ・デザインするため、必要と考えられる管理手法を以下に示す。

**《1》 落葉高木の健全育成**

- ・ 樹木の健全度調査
- ・ 危険木の除去
- ・ 落葉高木の樹形育成
- ・ 落葉樹林の景観形成
- ・ サクラの保全管理

**《2》 中木の整理**

- ・ 車道沿いの生垣以外の中木の間伐

**《3》 車道沿い生垣の適正管理**

- ・ 生垣が途切れている箇所への補植
- ・ 車が見えない程度の高さの維持

3. 管理運営計画

〔5〕リ・デザイン年次計画

リ・デザイン年次計画を以下に示す。

【表 リ・デザイン年次計画】

項目	年					
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
落葉高木の健全育成	樹木の健全度調査	危険木の除去				
		サクラの保全管理				
		落葉高木の樹形育成 落葉樹林の景観形成				
中木の整理	車道沿いの生垣以外の中木の間伐					
車道沿い生垣の適正管理	生垣が途切れている箇所への補植					
	車が見えない程度の高さの維持					

## 〔6〕リ・デザイン後の日常維持管理計画

リ・デザインにより目標景観が達成した後の日常管理計画を以下に示す。

目標景観の達成後も、植物の特性、個々の生育状況にあわせた管理が行えるよう、複数年をかけた植栽管理を継続することが望ましい。なお、1年ごとに管理者が交代する場合は、適切な引継ぎや管理内容に対する指導ができる体制づくりが望まれる。

【表 日常管理計画】

管理項目	管理内容
高木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 剪定</li> <li>・ 施肥</li> <li>・ 病虫害防除</li> <li>・ 枯損木処理</li> </ul>
中木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 剪定</li> <li>・ 施肥</li> <li>・ 病虫害防除</li> <li>・ 枯損木処理</li> </ul>
生垣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 剪定</li> <li>・ 施肥</li> <li>・ 病虫害防除</li> <li>・ 枯損木処理</li> <li>・ 補植栽</li> </ul>
景観管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落葉高木の樹形育成</li> </ul>
管理記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理記録の作成</li> </ul>

## 〔7〕点検計画

リ・デザインにより目標景観が達成して以降の点検計画を以下に示す。

【表 点検計画】

点検項目	点検内容
日常点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常管理における目視による点検を行う。</li> </ul>
初期診断・外観診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常点検で問題が見られた樹種について、サクラや倒木の危険性があるものについて、樹木医等専門家の診断を行う。</li> </ul>
精密診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記診断で、異常があると診断された樹木について、測定器を用いた専門診断を行う。</li> </ul>
景观点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数年ごとに、目標景観の見直しを行う。</li> </ul>

②新庄ガード南交差点付近植栽管理ガイドライン案

〔1〕現況の特性

対象地は、サクラを中心とした植栽となっている。その他、現況の特性を以下に示す。

【表 対象地の現況一覧】

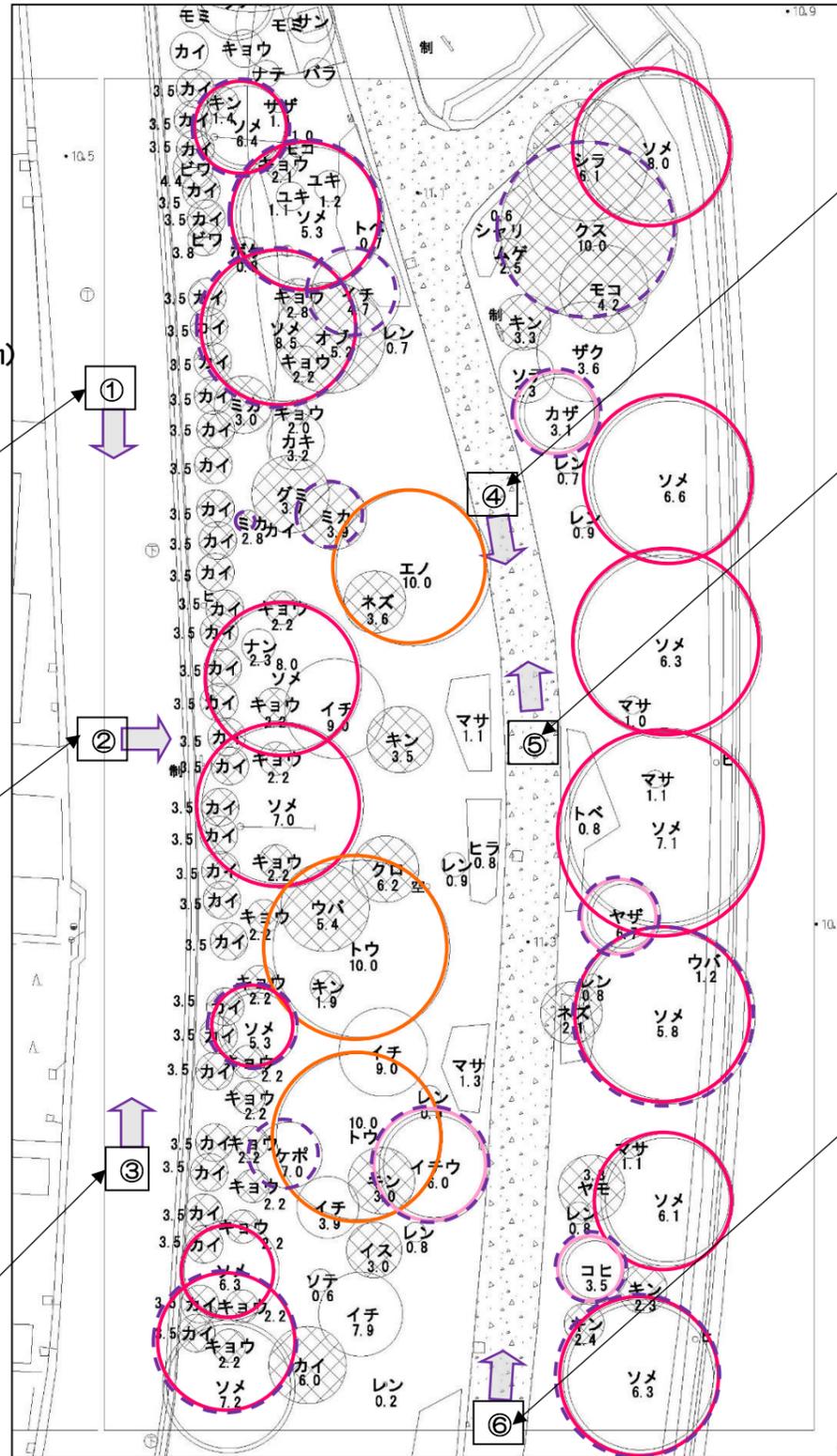
項目	現況
構成	高木、中木、低木が混ざっており、様々な高さの樹木が植えられている。
植栽密度	植栽密度が高く、樹間が狭い。 <b>【良い点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑を多く感じることができる。</li> </ul> <b>【課題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サクラやツツジ等に必要な日が当たらない。</li> <li>・ 見通しがきかない。</li> <li>・ 圧迫感がある。</li> <li>・ 歩ける場所が少ない。</li> </ul>
植栽の特徴	落葉高木に、サクラが多く植えられている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソメイヨシノ：車道側に列植</li> <li>・ カンザン、イチヨウ等：園路沿いに列植</li> </ul>
	樹形が良い高木が見られる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エノキ、トウカエデ</li> </ul>
	車道との境界に沿い生垣がある。 <b>【良い点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目隠しになる。</li> <li>・ 背景の緑になる。</li> </ul> <b>【課題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見通しがきかない。</li> <li>・ 圧迫感がある。</li> <li>・ 住宅地側の生垣は、樹高が高く成長しており、強風等による倒木時の被害が懸念される。</li> <li>・ 維持管理にコストがかかる。</li> </ul>

3. 管理運営計画

■ 現況植栽図面・現況植栽リスト・現況写真

- ソメイヨシノ
- その他サクラ
- エノキ、トウカエデ
- 常緑樹
- 樹勢異常（目視による確認）

※ 図中、樹種名の下の数値は、樹高 (m) を示す。



記号	樹種名
	常緑高木
イス	イスノキ
オブ	オリーブ
クス	クスノキ
クロ	クロガネモチ
シラ	シラカシ
ビワ	ビワ
ミカ	ミカン
モコ	モッコク
ヤモ	ヤマモモ
	常緑中木
ウバ	ウバメガシ
カイ	カイズカイブキ
キョウ	キョウチクトウ
キン	キンモクセイ
グミ	グミ
サザ	サザンカ
ソテ	ソテツ
ネズ	ネズミモチ
マサ	マサキ
	常緑低木
シャリ	シャリンバイ
トベ	トベラ
ナン	ナンテン
ヒラ	ヒラドツツジ
	落葉高木
イチ	イチヨウ
イチウ	イチヨウ
エノ	エノキ
カキ	カキ
カザ	カンザン
ケボ	ケンボナシ
コヒ	コヒガン
ソメ	ソメイヨシノ
トウ	トウカエデ
モミ	モミジ
ヤザ	ヤマザクラ
	落葉中木
ザク	ザクロ
ムグ	ムクゲ
	落葉低木
ボケ	ボケ
ユキ	ユキヤナギ
レン	レンギョウ

〔2〕管理目標

現況のサクラを活かし、以下の管理目標を掲げる。

【表 管理目標】

管理目標	サクラが際立ち、落葉樹を主体とした緑地		
目標像			
■ 現況			
			
			
■ 将来像			
			
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ サクラを主とした植栽</li> <li>➤ 樹形が整ったエノキやトウカエデ等のシンボル樹を育成</li> <li>➤ 花、新緑、紅葉が楽しめる落葉樹を主体とした緑地</li> </ul>			
季節ごとの主な見頃の植栽			
春	サクラ、ユキヤナギ、レンギョウ、ツツジ	秋	サクラ、イチョウ、トウカエデ、キンモクセイ
夏	サクラ、ヤマモモ、キョウチクトウ	冬	サザンカ、ナンテン、マサキ

〔3〕 管理方針

管理目標の「サクラが際立ち、落葉樹を主体とした緑地」を目指し、管理を行う上での方針を以下に示す。

【表 管理方針】

<p>管理方針 1</p>	<p>健全なサクラが連続する景観形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サクラの健全育成</li> <li>・サクラが連続して見える景観形成</li> </ul>
<p>管理方針 2</p>	<p>特に春に重点をおいた季節の花と紅葉の修景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サクラの開花時期に見頃になる花の修景</li> <li>・歩行の妨げにならない箇所への季節の花の修景</li> </ul>
<p>管理方針 3</p>	<p>見通しが良くおおらかな緑地環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しを阻害している園路沿いの中低木の伐採</li> <li>・生垣の圧迫感を軽減しつつ適度な遮蔽効果を維持</li> </ul>
<p>管理方針フォトモンタージュ</p>	
 <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>・サクラが連続する景観形成</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>・サクラの健全育成 ・樹形育成 ・後継木を育成し、更新</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>・シンボル樹の樹形育成</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>・生垣は、車が隠れる程度の高さを維持</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>・常緑樹を間伐し、落葉樹が主体の明るい樹林環境を形成</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>・中木、低木を伐採 ・見通しが良く、圧迫感のない景観を保つ</p> </div> </div>	

**〔4〕 リ・デザイン管理手法**

管理目標とする植栽環境を実現し、リ・デザインするため、必要と考えられる管理手法を以下に示す。

**《1》 サクラの樹勢回復及び更新**

- ・健全度調査の実施
- ・樹勢回復計画の作成
- ・樹勢回復計画に基づく管理（サクラの間引き、周辺の常緑樹の伐採など）

**《2》 サクラが連続する景観の管理**

- ・サクラの枝が張るよう樹形を育成
- ・サクラが連続する景観を妨げる常緑樹の間伐
- ・サクラより園路側にある植栽の間伐

**《3》 花と紅葉が楽しめる植栽の充実及び樹形育成**

- ・修景計画の作成
- ・修景計画に基づく管理（剪定、間伐、追加植栽、シンボル樹の育成）

**《4》 中低木の間伐**

- ・園路沿いを中心とした中低木の間伐

**《5》 適切な生垣管理**

- ・住宅地側のカイヅカイブキ、キョウチクトウの間伐
- ・住宅地側の生垣の剪定（住宅地が隠れつつ、圧迫感の少ない高さを維持。）
- ・車道側の生垣の育成及び剪定（厚みのある生垣の形成。自動車が隠れる程度の高さを維持。）

### 3. 管理運営計画

#### 〔5〕リ・デザイン年次計画

リ・デザイン年次計画を以下に示す。

【表 リ・デザイン年次計画】

項目	年				
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
サクラの樹勢回復及び更新	健全度調査の実施	樹勢回復計画の作成	樹勢回復計画に基づく管理（サクラの間引き、周辺の常緑樹の伐採など）		
サクラが連続する景観の管理	サクラが連続する景観を妨げる常緑樹の間伐	サクラより園路側にある植栽の間伐			
			サクラの枝が張るよう樹形を育成		
花と紅葉が楽しめる植栽の充実及び樹形育成	修景計画の作成	修景計画に基づく管理（剪定、間伐、追加植栽、シンボル樹の育成）			
中低木の間伐	園路沿いを中心とした中低木の間伐				
適切な生垣管理	住宅地側の生垣の剪定		住宅地側のカイヅカイブキ、キョウチクトウの間伐		
	車道側の生垣の育成及び剪定（厚みのある生垣の形成。自動車が隠れる程度の高さを維持。）				

## 〔6〕リ・デザイン後の日常維持管理計画

リ・デザインにより目標景観が達成した後の日常管理計画を以下に示す。

目標景観の達成後も、植物の特性、個々の生育状況にあわせた管理が行えるよう、複数年をかけた植栽管理を継続することが望ましい。なお、1年ごとに管理者が交代する場合は、適切な引継ぎや管理内容に対する指導ができる体制づくりが望まれる。

【表 日常管理計画】

管理項目	管理内容
高木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 剪定</li> <li>・ 施肥</li> <li>・ 病虫害防除</li> <li>・ 枯損木処理</li> </ul>
中低木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 剪定</li> <li>・ 施肥</li> <li>・ 病虫害防除</li> <li>・ 枯損木処理</li> </ul>
生垣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 剪定</li> <li>・ 施肥</li> <li>・ 病虫害防除</li> <li>・ 枯損木処理</li> <li>・ 補植栽</li> </ul>
景観管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サクラが連続する景観の形成</li> <li>・ サクラ、イチョウ、トウカエデの樹形育成</li> </ul>
管理記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理記録の作成</li> </ul>

## 〔7〕点検計画

リ・デザインにより目標景観が達成して以降の点検計画を以下に示す。

【表 点検計画】

点検項目	点検内容
日常点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常管理における目視による点検を行う。</li> </ul>
初期診断・外観診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常点検で問題が見られた樹種について、サクラや倒木の危険性があるものについて、樹木医等専門家の診断を行う。</li> </ul>
精密診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記診断で、異常があると診断された樹木について、測定器を用いた専門診断を行う。</li> </ul>
景観点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数年ごとに、目標景観の見直しを行う。</li> </ul>

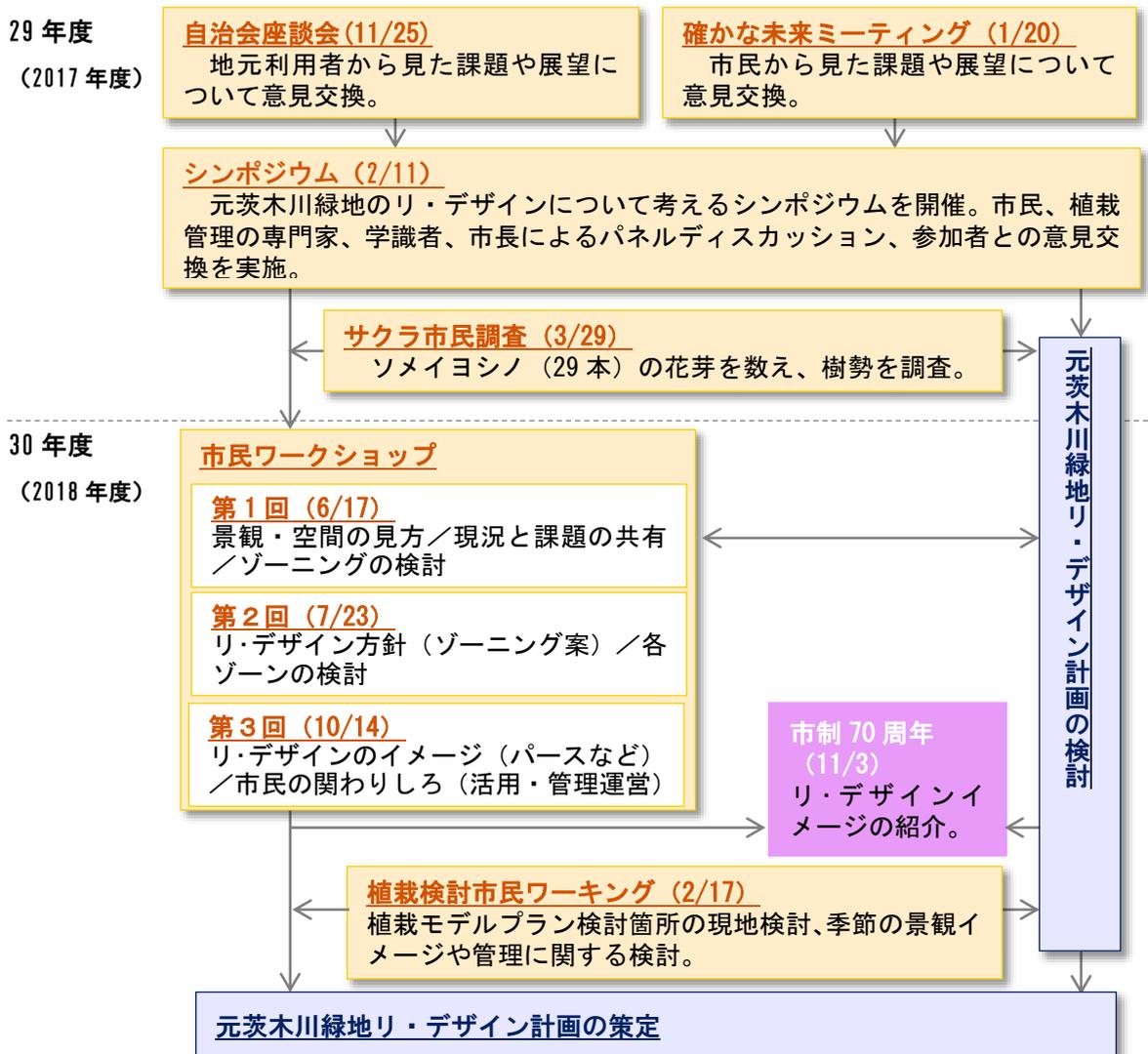
2) 市民参加による推進計画

(1) 市民参加によるリ・デザイン計画策定の経緯

元茨木川緑地は、整備後 40 年にわたって人々の暮らしに密接に関わり、今も多くの市民に親しまれている緑地である。

リ・デザイン計画は、季節の魅力や新しい使い方など、元茨木川緑地の「眠っている価値」を引き出し、市民全体の財産となる緑地の創造を目指している。その推進にあたっては、多様な市民の交流を育み、新しい魅力ある活動が生まれる場としていくため、市民の理解と関わりが大切である。

このため、計画を検討する段階から、市民と共に課題を出し合い、リ・デザインが目指すイメージを考える「市民ワークショップ」や「シンポジウム」、「植栽検討市民ワーキング」といった市民参加の機会を設け、計画の検討を進め成果の共有を図ってきた。以下にその経緯を示す。



【図 市民参加によるリ・デザイン計画策定の経緯フロー】

(2) 市民参加による推進計画

① 推進計画の考え方

市民参加による推進計画では、共に考えアイデアを出し合う協働の話し合いの場の運営と、緑地の活用など検討した内容を市民協働で取組む実践を同時並行的に実施し、市民との話し合いと実践を一体的に進めるものとする。

協働の話し合いの場となる協議会や市民ワークショップといった協働の「プラットフォームの設置」、緑地の活用などプラットフォームで考えた内容を、市民参加型により試行する「推進プロジェクトの実施」、市民が主体となった活用プログラムの実践やリ・デザインの普及・啓発の場として「茨木市民さくらまつりの新展開」の3つに取組み、内容と成果を市民が共有できるよう、ニュースレターやホームページ等で公開する。

① プラットホームの設置

市民が緑地の活用、植栽環境や空間づくりについて当事者意識を持って考え、多様な意見を共有する場となる市民協働のプラットフォーム（協議会等）を設置する。

② 推進プロジェクトの実施

市民による元茨木川緑地の活用の契機となり、様々な活用方法を見出すため、市民参加型のイベント等を試行する推進プロジェクトに取組む。

③ 茨木市民さくらまつりの新展開

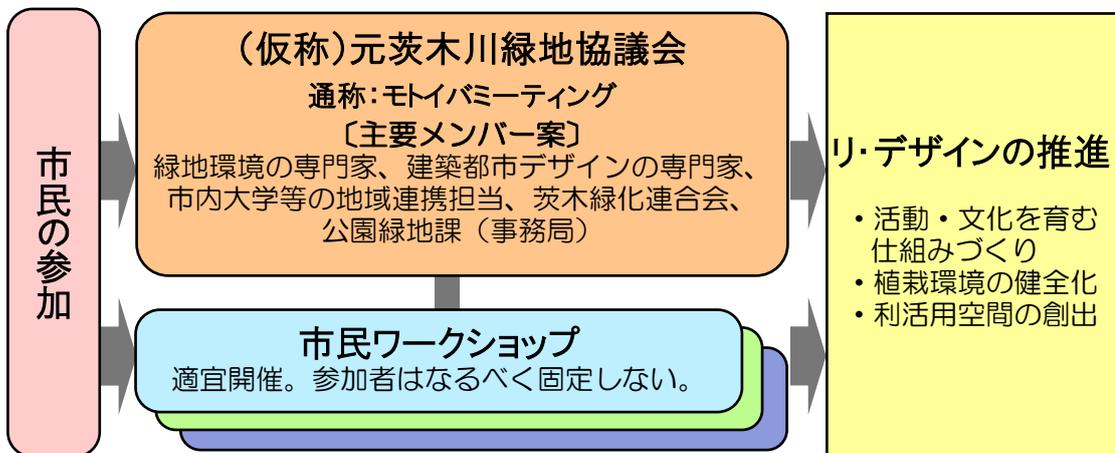
市民参加による利活用を先導する主要プロジェクトとして、茨木市民さくらまつりの新展開に取組み、市民が主体となったプログラムの企画や実践の場、リ・デザインの取組みを広く市民に伝える普及・啓発の場とする。

②推進計画

〔1〕プラットフォームの設置

市民、学識、行政等が一堂に会し、緑地の活用や環境・空間づくりについて考え、多様な意見を共有する場となる協働のプラットフォームを設置する。テーマに合わせて、関心のある市民が参加できるよう、主要メンバー以外の参加者は固定せず、参加の間口が広いプラットフォームとする。また、必要に応じて、適宜「市民ワークショップ」を開催し、植栽管理や先行的に整備する箇所の内容に、市民の意見を反映する。

【プラットフォームのイメージ模式図】



〔2〕推進プロジェクトの実施

市民による元茨木川緑地の活用の契機となり、様々な活用方法を見出すため、推進プロジェクトに2ヶ年をかけて取り組む。推進プロジェクトの内容は、平成30年度に実施した市民ワークショップの意見を踏まえて企画し、実施した内容は、ニュースレター等にまとめ、プロジェクトに参加していない市民とも実施内容と成果を共有できるようにする。推進プロジェクトの実施にあたっては、企画や準備の段階から、可能な限り市民参加型で取り組む。



案：「落ち葉フェス」（葉っぱクラフト、落ち葉プール、ピクニック等）

### 〔3〕茨木市民さくらまつりの新展開

サクラは、多くの市民に元茨木川緑地の魅力として捉えられ、親しまれており、これまで元茨木川緑地では、毎年春に行政が主体となって茨木市民さくらまつりを開催してきた。しかし、市民参加によるリ・デザインを推進し、元茨木川緑地での市民の様々な活動を促進するためには、今後は、行政主体ではなく、市民が主体となった運営体制へと発展していくことが望まれる。

よって、茨木市民さくらまつりが、市民が主体となって企画を考え、様々な活動を実践する場となるよう、参加の機会を設け、協働の仕組みづくりを推進していく。そして、市民参加による元茨木川緑地の活用モデルとするとともに、リ・デザイン計画が目指す緑地の姿を広く市民に伝える機会、市民参加の普及・啓発の機会としていく。



案：市民によるサクラガイド企画等

## 4. 今後の展開

今後、全長 5 km と長大な緑地のリ・デザイン計画を市民の参加を得ながら進めていくため、第 1 期（2019 年度）、第 2 期（2020 年度）の 2 ヶ年をかけて、以下に取り組む。

【表 今後の展開 ～2019～2020 年度の取組み～】

テーマ	取組み内容
活動・文化を育む仕組みづくり	リ・デザイン計画を推進する市民参加の仕組みの基盤づくり
植栽環境の健全化	樹木調査及び植栽管理ガイドラインの作成
利活用空間の創出	先行的に整備を進める箇所の基本計画図の作成

### 1) 活動・文化を育む仕組みづくり

プラットフォームの設置及び開催、市民による元茨木川緑地の活用を促進する推進プロジェクトの実施、植栽環境や利活用空間の創出に関する整備内容について具体的に検討する市民ワークショップの開催、茨木市民さくらまつりの新展開に取り組む、市民参加の仕組みの基盤づくりを行う。また、市内教育機関や大学等の連携を促進する。

【表 「活動・文化を育む仕組みづくり」当面の実施スケジュール案】

取組み項目	推進期間		以降
	第 1 期	第 2 期	
プラットフォーム（協議会）	・プラットフォーム（協議会）の設置準備会の開催	・準備会の開催（2 回開催）	・プラットフォームの設置、開催
推進プロジェクト	・2 回開催	・2 回開催	・活用プロジェクトの募集
市民ワークショップ	・2 回程度開催（植栽ガイドライン、先行的な整備箇所について）	・2 回程度開催（植栽ガイドライン、先行的な整備箇所について）	・必要に応じて継続的に開催
茨木市民さくらまつり	・市民参加による実施内容の検討	・市民を中心とした実行委員会の立ち上げ	・実行委員会による企画、運営

## 2) 植栽環境の健全化

「植栽管理ガイドライン案」(平成30年度作成)に基づき、別途実施される植栽環境を把握するための樹木調査の内容を踏まえ、植栽管理目標、管理方針、管理手法等をまとめたガイドラインを作成する。作成にあたっては、周辺住民や市民の意見を踏まえた内容となるよう必要に応じて、市民ワークショップを開催する。

【表 「植栽環境の健全化」当面の実施スケジュール案】

取組み項目	推進期間		以降
	第1期	第2期	
樹木調査 (毎木、健全度)	・11区間中5区間の調査	・残り区間の調査	・定期点検
ガイドラインの作成	・11区間中4区間を作成 ・市民ワークショップ1回程度開催	・残り区間、全体と りまとめ ・市民ワークショップ1回程度開催	・定期的な見直し 改善

## 3) 利活用空間の創出

利活用空間を創出するため先行的に整備を行う箇所について、施設状況の把握、具体的な整備内容の検討、基本計画図の作成、概算整備の算出を行う。検討にあたっては、市民が活用しやすい内容となるよう市民の意見を把握するため、必要に応じて市民ワークショップを開催する。

また、元茨木川緑地全体の利活用を促進するため、施設再整備計画を作成する。

【表 「利活用空間の創出」当面の実施スケジュール案】

取組み項目	推進期間		以降
	第1期	第2期	
先行的な整備箇所の 基本計画図の作成等	・5箇所中2箇所を作成 ・市民ワークショップ1回程度開催	・5箇所中3箇所を作成 ・市民ワークショップ1回程度開催	・順次整備着手 ・必要に応じて市民ワークショップの開催
施設再整備計画	・施設の現況把握 ・再整備計画の作成	・施設の再整備を実施	・施設の再整備を継続